

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 4 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 35名	(依頼数) 41名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホームフルーツの家 1ユニット
記入者(管理者) 氏名	伊藤 淳
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】 和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 評価結果と目標達成計画を1階と2階でモニターをするように取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染症で、交流ができない事もあり、思うように取り組めていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 開設して24年目を迎える事業所は、現在の場所に新築移転されてからも、バリアフリー構造の建物内に清潔感が保たれているほか、リビングが中庭に面して配置され、開放感がある。同じ建物には、居宅介護支援事業所や通所介護、訪問看護、訪問介護事業所が併設され、広い駐車場も完備されている。以前は、併設するデイサービスの利用者との交流も行われていたが、感染対策もあり現在は休止している。コロナ禍が続き、休止されていた認知症カフェは、今年度から再開して毎月開催できるようになり、多方面から参加を得て、利用者との交流も図られるようになっている。事業所には、面会や外出などの制限が継続されているが、感染対策を講じた上で、季節の花を見に行ったり、事業所内で夏祭りを開催したりするなど、利用者が気分転換を図りながら、楽しみのある生活を送れるよう支援している。また、法人として、年間の社内研修計画を作成し、計画的に研修を実施して職員のスキルアップに努めていることもあり、職員の意識も高く、利用者の心身機能の維持・向上に向けた取り組みを実践している。さらに、法人・事業所として、外国人の技能実習生の受け入れに協力したり、市行政と連携して、代表者が介護教室や認知症サポーター養成講座の講師を務めたりするなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信を行うことができている。</p>
---	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時、前利用事業所情報や聞き取りにて希望等の把握をしている。	○	/	○	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	前利用事業所情報や家族さんより聞き取りを行っている。	/	/	/	入居時に、管理者等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などを聞き取り、アセスメントシートに記録している。日々の暮らしの中で、新たに得られた情報は赤字で追記するなど、職員間で共有をしている。入居後にも、日常の関わりの中で、担当職員が利用者から話しを聞くほか、表情などを観察し、思いを推し量るよう努めている。また、介護計画の見直し時期には、再度利用者や家族へ意向を聞き取るなど、アセスメントシートの情報も更新されている。
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居時に家族さんから情報収集をしたり、家族さんや知人さんの面会時や電話などで情報収集し確認している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	経過記録やフェイスシートに記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	普段の生活状況から話の内容などに注意して、本人の思いを見逃さないようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人より聞き取りをして、家族さんや知人さんの面会時に情報収集し確認している。	/	/	○	入居の際に、管理者等は利用者や家族から、これまでの暮らし方などを聞き取るとともに、把握した情報はアセスメントシートに記録している。入居前に、利用者が入院中や施設入所中でも、管理者等は病院等に出向き、面会をして話しを聞くほか、病院の関係者や介護支援専門員等から情報を得ることもある。入居後にも、日々の会話の中などで、担当職員が新たな情報を聞くこともあり、アセスメントシートに追記するほか、申し送りを活用して職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	家族さんより聞き取りを行ったり、本人が言った言葉や態度を見て把握し、アセスメントシートに記録したり、申し送りなどで伝えるようにしている。本人の考えやこれまでの暮らしや生活状況などから要因を検討している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	午前・午後・夜間に分けて、別紙に記載し、経過記録に記載するようにしている。また、申し送りなどにより報告している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	担当者会議や申し送りなどで、本人的にはこうではないだろうかと検討している。本人さんとも話をして情報を得ている。	/	/	○	担当職員を中心に把握した利用者の情報を、詳細にまとめたアセスメントシートを作成している。訪問診療や訪問看護の専門的な意見を含め、事前に把握した情報をもとに、日々の申し送りや担当者会議などを活用して、職員間で話し合って情報共有するとともに、利用者本人の視点に立ってより良い支援方法などを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアプランのニーズに記載するようにしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアプランの本人や家族の意向欄に記載するようにしている。	/	/	○	事前に、利用者や家族から意向を聞き、主治医から診療報告書等で情報や指示をもらうことができている。把握した情報をもとに、計画の原案を作成し、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者が取りまとめて介護計画を作成している。利用者や関係者から出された意見を計画に反映するとともに、利用者や家族に説明し、同意を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	担当者会議などの結果を元にケアプランを作成している。	○	/	/	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	徐々に悪化してきたとしても、極力今までの生活状況を変えないようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんの協力依頼は出来ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	経過記録の中にケアプランを入れ、毎回確認出来るようにして、いつでも見られるようにしている。	/	/	/	◎ 介護計画作成の過程に参画し、職員は利用者一人ひとりの計画の内容を把握している。利用者個別のアセスメントシートと介護計画は、個人ファイルに経過記録用紙と一緒に綴じられ、記録を記載する際に職員は確認できるようになっている。また、新たな気づきや発見などがあつた場合には、アセスメントシートに赤字で追記し、職員間で共有しやすくなっている。さらに、日々の記録は個別具体的に記載され、月末にモニタリングを実施し、今後のより良い支援に繋げている。AP欄への記載が少なく、利用者の状況等を記載し、より分かりやすい記録の充実も期待されるが、代表者は負担もあり、「一人ひとりの職員に、そこまで求めるのは難しい」と考えている。	
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々行う中で変化があつた時は、申し送りなどで報告し今後の支援を検討している。	/	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	1年間で見直し、退院や大きな変化があつた時には見直しを行っている。	/	/	/	◎	
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	経過記録に月末付近で確認するようにしている。	/	/	/	◎	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	大きな変化や退院時などは、モニタリング、アセスメント、担当者会議を行い、ケアプラン変更している。	/	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月の部署別会議後検討したり、申し送り時に行っている。	/	/	/	◎	
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	責任者は、職員の意見を否定せず、職員の意見が出なくなった時や意見を求められたら発言するようにしている。	/	/	/	◎	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	会議内容を示した書類を全職員に回覧しサインしてもらっている。会議に参加できなかった職員に対しては責任者が改めて説明している。	/	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	個別の経過記録とは別に、1日単位の記録用紙を作り、申し送りや連絡事項などを記載している。皆が確認できるまで、書くようにしている。回覧は、一つにして、サインするようにしている。	○	/	/	◎ 日々の申し送りを実施している。利用者全員の介護記録と排泄記録が1日単位にまとめられ、連絡事項なども記載された様式を使用し、職員は確認後にサインをしている。また、回覧や議事録などの確認後に、サインを残す仕組みがあるほか、全ての職員が確認できるまで、申し送りを継続している。さらに、医師の指示は、介護記録のAP欄に記載等をして赤枠で囲むなど、いずれの職員が見ても分かりやすくなっている。	
(2) 日々の支援										
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	希望があつた内容は、当日の職員で検討し、上司へ報告し実行している。利用者さんで偏りがないように検討している。	/	/	/	/	
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴時の服選びは、本人に任せ、十分出来ない人には、口頭での支援をしている。10時の飲み物は選べるように一覧表を作成し、選んでいる利用者さんもある。	/	/	/	○	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのベースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床や就寝は、本人に任せ、好きな時間で過ごしてもらっている。食事は、1時間30分の猶予を設けている。入浴は、何回か声掛けするようにしている。	/	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	目線を合わせ、名前呼び、笑顔で対応するように心がけている。	/	/	/	/	○
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	言葉を発しなくても、表情や動きを見ながら、目線を合わせて声かけをするようにしている。肩や背中などを摩りながら話を聴くようにしている。	/	/	/	/	/
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	法人全体で勉強会を実施し学び、研修内容の報告書を各自で書いている。	○	◎	◎	◎	
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	一人一人入浴をし、ドアを閉め、タオルを使用するなど、排泄時も含め露出出来る限り少なくしている。	/	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入る時は、ノックし、入室時には挨拶をして、出る時にも、声かけをしている。不在時に訪れる時も、声を掛けるようにしている。	/	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	法人全体で勉強会を実施し学び、自宅や地域では仕事の話はしない様になっている。	/	/	/	/	◎

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の先輩として会話の中において教えてもらったり、下ごしらえや洗濯物たたみ等を行ってくれたら、感謝の気持ちを伝えるようにしている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性を把握し、配席などの考慮をしている。また、職員が利用者と一緒に過ごすことで、大きなトラブルに発展しないようフォローしている。中には、パズルの邪魔をしたり、話す口調がきつくなったりする利用者もあり、距離を置くほか、配席を変えるなどの工夫した対応もしている。さらに、利用者同士が体調を気遣って声をかけたり、面倒を見たりする姿も見られる。中には、孤立しがちな利用者もあり、職員が声をかけ、利用者同士の間を取り持つような支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	職員と利用者さんだけではなく、同世代の利用者さん同士の関わりも大切である。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者さん同士が、話したり手伝い合っている時には、見守るようにしており、トラブルにならないようにしている。また、仲の良い利用者さん同士を同じテーブルにしたり、同じ時期に外出したりするようにして、孤立しない様に配慮している。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員はお互いの話をゆっくりと聴き、少しでも不安や不満が残らないようにしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所ドライブなどで出かける事はありますが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。コロナ感染症予防の為面会制限もあるので電話で話せる機会を作っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせるように努めている。併設の通所介護が外出の際に、乗車定員に余裕があれば、声を掛けてもらい一緒に外出もしている。気候の良い日は、車椅子で外庭や近くを散歩に行ったりしている。重度の方で、体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、花を見たりしている。	○	○	○	コロナ禍が続き、事業所の敷地外へ外出する頻度は減少しているが、敷地内は広く、日常的に歩行をしたり、外気浴をしたりすることは十分にでき、利用者の気分転換に繋がっている。感染対策を講じた上で、ドライブをして、桜や芝桜、藤の花などの花を見に行ったり、8月には敷地内で夏祭りを開催したりするなど、徐々に以前のような支援が再開され、利用者には喜ばれている。また、2階のベランダでは、スイカやひまわりを利用者と一緒で育てられ、重度の利用者もベランダに出て、生長の様子を楽しんでいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍で地域の方との関りが減っているのが現状である。毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	事業所では、利用者の心身機能の維持や向上を目指し、状況に応じてパズルやマスメゲームなどで脳の活性化を図るとともに、1日2回のラジオ体操や、食事前に手の体操を職員と一緒にし、身体を動かす機会を設けるなどの支援に取り組んでいる。また、車いすを自走できる利用者には、職員が見守りながら自走してもらうなど、一人ひとりのできることをアセスメントし、介護計画の中に取り入れ、継続できるような支援にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように声掛け見守りをしている。家事全般が得意な人には、日課としてもらうようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	日常の関わりの中で、職員は、利用者が何をしたいか、何ができるかを把握し、張り合いのある生活を送れるよう支援している。洗濯物たたみやテーブル拭きなど、利用者に見守りしてもらった後には、必ず職員は「ありがとうございました」とお礼を伝え、やりがいを感じてもらえるようにしている。お花の先生をしていた利用者には、事業所内で花を生けてもらうなどの出番作りを行うなど、楽しみのある生活が送れるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者が何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようになっている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をともってもらっている。				事業所では、日々利用者が自尊心やプライドを保ちながら生活を送れるような支援に努めている。起床時等に、職員と一緒に鏡を見ながら整容をしたり、目ヤニが付いていると、コットンでやさしく拭いたり、顔を自分で洗うことができない利用者には、濡れタオルで拭くなどの対応をしている。中には、自分で化粧を行い、夜には、きちんと自分で化粧を落としてから寝る利用者もいる。また、月1回の訪問美容で、好みの髪形に整えるほか、希望に応じて、馴染みの美容室へ出かける利用者もいる。重度の利用者も含めて、利用者自身の好きな洋服や髪型を考慮した支援もしている。さらに、食事の際に、安易に食事エプロンを使用せず、代用してタオルを使用している。加えて、食べこぼしや着衣の乱れが見られた場合には、他の利用者に気付かれないように、職員はさりげなくフォローするなどの気配りが行われている。100歳のお祝いなど、記念すべき時には、ドレスアップをする利用者の姿も見られるなど、張り合いが持てるような支援にも取り組んでいる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようになっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようになっている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようになっている。衣替え等もスタッフと一緒にやっている。夏祭りには馴染みの甚平や法被を着て頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。声を掛けず身振り手振りで伝えたり、小声で伝えたり、さりげなく直したりしている。職員が気配りできるように努力している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。コロナ禍の為行けていない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	社内研修で学べる機会があり、理解できている。				法人の栄養士が献立を作成し、専属の職員が厨房で調理を行い、利用者の好みやアレルギーの有無のほか、季節の行事や旬の食材などが考慮され、バランスの取れた食事を利用者に提供している。利用者は、食材の下ごしらえやテーブル拭き、食器の片付けなど、リビングでできることを手伝っている。箸やスプーンは、入居時に馴染みの物を持ち込んでもらい、基本的に使用してもらっているが、食器類は、事業所で用意した滑りにくい物や主食が見えやすい色つきの物を用意して、なるべく利用者自身で食べられるようにしている。また、利用者の嚥下状態に合わせて、やわらかさや刻みなど、食べやすい食の形態で提供している。菜園で採れた野菜や果物を使用することで、利用者は季節を感じる事ができる。以前は、食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂ることができていたが、感染予防のため、職員は見守りや食事介助に専念し、現在は別の場所で同じ食事をしている。リビングには、1日の食事の献立が掲示され、リビングに面したガラス越しに見える厨房の様子が見えるほか、匂いなどから食事が待ち遠しくなるなど、利用者を楽しみを感じさせている。食事前には、重度の利用者もリビングに出て食事を摂っており、他の利用者と一緒に献立の説明を聞くほか、手の体操や歌を歌うなど、食事の雰囲気を感じることができるよう配慮も行われている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや食器の下膳は、出来る利用者さんが時々してくれている。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでいる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとも食事を楽しんでもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手な物、アレルギーにも配慮してくれている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。調理中が分かるように少し窓を開けて音やにおいが分かるようになっている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、滑りにくい物を使っている人もいる。主食を見えやすくする為、色のついたお椀を使用して自分で食べられるようにしている。使いやすいスプーンやフォークを使ってもらっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたりの配慮をしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事の道具具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望を聞いて、栄養士さんが献立をたててくれている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。	/	/	/	月2回、利用者は訪問歯科診療を受けている。歯科衛生士による利用者全員の口腔内のチェックのほか、口腔ケアの指導もあり、職員は利用者の口腔内の健康状態を把握するとともに、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。歯磨きができる利用者には、職員が見守りや口腔内の確認を行うとともに、自分で歯磨きができない利用者には介助をするなど、日常的に口腔内の清潔保持に努めている。約7年間に渡り、歯科医と歯科衛生士に来院してもらい、指示やアドバイスを受けることができていたが、今までに得た職員の知識や技術を活かして、訪問調査月である10月からは、職員間で適切な口腔ケア支援を行うようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診が有り診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導もしてくれている。毎食、歯磨きを促し、出来ない利用者さんには、職員が介助で磨いたり、うがいをしてもらったりして、出血の有無など確認している。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。リハビリパンツで過ごす利用者も多いが、排泄パターンを把握して、職員が声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツを履いて生活を送ることのできている利用者もいる。状況に応じて、ポータブルトイレを居室に置いている利用者もいる。状態に応じて、パッドやリハビリパンツなどの排泄用品の使用が必要な場合には、申し送りや職員会議等の中で適切な用品を職員間で検討するとともに、家族に了承の上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。イレウスなど注意している。主治医や看護師にも相談している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、ホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人さんの希望時間を確認してから入浴してもらっている。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらっているようにしている。	◎	/	◎	事業所では、入浴できる曜日や時間帯を固定せずに、利用者の希望に応じた支援をしている。午前と午後の入浴も可能で、勤務体制もあるが、16時頃までの入浴を可能としている。希望があれば、毎日の入浴も可能で、中には、月に25日程度入浴している利用者もいる。また、入浴を拒む利用者には、曜日や時間帯を変えて、職員が声かけするなどの工夫を行い、少なくとも週2回は入浴できるよう支援することができている。夏場には、シャワー浴の対応をすることもあるが、利用者が基本的に湯船に浸かれるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくりと入浴できるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強いしないように努めている。時間帯を考えたリスタッフを交代して、気持ちよく入ってもらいよう工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	事業所では、なるべく服薬に頼らない方針で、日中の過ごし方などにも注視し、夜間に利用者が良眠できるような支援に努めている。寝付けない利用者には、22時までテレビで寝るまで、ゆっくりと過ごしてもらっている。中には、睡眠導入剤を使用している利用者も数名いるが、内服時間を22時頃に、眠れない場合などに薬を服用してもらっている。また、昼寝の時間が長くないように、職員は利用者にも声をかけて、日中の活動を支援するなど、生活リズムを整えるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらっている。日中はなるべく活動してもらおうように工夫している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっており、ゆっくり話せる環境づくりをしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	夏祭りでは、自分で買う事を楽しんでもらっている。パン屋さんの来訪があり、券とパンを引き換えて、買い物している気分を味わってもらっている。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	必要なものがあれば、立て替えをしている。事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしているが、コロナ禍で十分にはできていない。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない場合は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	○	/	○	外部の定期的な病院受診は、家族対応を原則としているが、県外に住む家族が対応できない緊急時など、職員は同行支援をしている。また、コロナ禍で行動制限が設けられた中でも、親族の法要や葬祭へ参列してもらうなど、利用者や家族から出された要望には、可能な限り応えられるように職員間で検討を行い、その時々状況に合わせて、柔軟な対応をしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	◎	広い駐車場の奥には、柿の木やサツマイモが植えられた畑があるほか、向かい合った両ユニットの玄関アプローチはすっきりと整備され、広い縁台も置かれるなど、利用者や来訪者がくつろげる空間となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を持っており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに応じた物を飾るようにしている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○	◎	○	広々とした玄関ホールには清潔感があり、季節の絵や観葉植物が飾られたスペースは来訪者を迎えてくれる。各ユニットのリビングは、中庭に面して配置され、リビングから見える中庭の植栽が、利用者に季節を感じさせてくれる。共用空間は採光が差し込んで明るく、掃除や換気が行き届き、不快な音や光、臭いなどはなく、花や絵が飾られるなど、心地良い空間となっている。訪問調査日には、利用者がソファに座ってくつろいだり、パズルやゲームをして楽しんだり、職員と穏やかに会話するなど、思い思いの場所で過ごす利用者の様子を見ることができた。また、リビングからは、ガラス窓で仕切られた厨房で調理する様子もよく見えるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的に掃除をし、臭いにも気を付けている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。月に1回掲示板を作成し、行事やイベント情報や写真などを掲示したり、行事ごとの飾りもしている。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、本棚など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。本が好きな方は、本棚を持って来られ、いつでも読書ができるようにしている。	◎	/	○	居室にはエアコンやベッド、チェスト、テレビ、クローゼットが備え付けられているほか、利用者は馴染みのものを持ち込むこともできる。中には、自宅からテーブルを持ち込んだり、写真や花を飾ったりするなど、好みの空間づくりを行い、居心地良く過ごしている利用者もいる。また、転倒の心配がある利用者の居室には、床に絨毯を敷くなど、安全への配慮も行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手摺りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。	/	/	○	建物内はバリアフリー構造で、利用者の動線上に、手すりが設置され、安全に移動できるようになっている。ユニット内にはトイレが3か所あり、分かりやすい表示も行われ、利用者が混乱しないように配慮されている。また、各居室には表札があるほか、様々なフルーツの写真の表示を目印にして、利用者が迷うことなく自立した生活が送れるように工夫している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見れるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	基本ユニットの入り口には、鍵をかけていない、やむを得ず職員が目が届かない状況の時や利用者さんが落ち着かない時だけ施錠している。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は、日中に玄関などの出入り口に鍵をかけることの弊害を理解している。事業所では、玄関や1階ユニットの出入り口に鍵をかけておらず、玄関はドアの開閉に合わせてチャイムが鳴るなど、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。2階ユニットのみ、出入り口の付近に階段があるため、利用者の安全面を配慮してユニットの入り口を施錠しているが、外に出ようとする利用者を制止することをせず、職員が一緒に付き添い、事業所内を一回りして納得してもらうなど、元の場所へ戻るような支援も行われている。また、同一階のユニット間は、利用者同士が自由に行き来できるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着かない時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。変化や追加があれば、その都度、赤で記入している。訪問診療所もカルテに入れている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等にいつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による住診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切に、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の同意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約及び口頭で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	代表及び看護師が主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間もおり、相談もしている。情報や気づきは常に看護師に報告をしており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	カルテに薬の内容を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。薬の変更があった時は必ず申し送りして伝えている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。				法人・事業所として、「看取り指針及び同意書」を整備し、入居時に、対応できることなどを説明するとともに、利用者や家族に延命の希望等を確認している。状態が悪化し、看取りの時期が近くなった場合には、家族や主治医、職員を交えて話し合うとともに、利用者や家族の意向を大切にしながら方針を共有し、看取り介護を行っている。また、主治医や訪問看護との連携は取れているが、医療依存度の高い利用者への看取り支援は困難であり、入居時に家族に説明して理解を得ている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。				
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュとヒビソール、ペーパータオルを設置している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆっくりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などでもできるだけ参加してもらえるように努めている。	/	/	/	以前は、年1回家族会を開催するほか、多くの家族が参加してイベントや行事等で交流を図ることができていた。現在は、感染対策のために建物内での面会対応もできておらず、イベントへの参加協力の呼びかけは行われていない。家族との面会は、屋外や窓越しの対応となっており、来訪時には、管理者や代表者から利用者の状況を説明している。また、利用者の状況は、3～4か月に1回、手紙で知らせているが、頻回な連絡はできていない。事業所の運営上の事柄や出来事は、運営推進会議や家族会の中で報告していたが、現在は家族会が開催できていないため、以前のような家族への十分な情報伝達まではできていない。事業所として、「感染状況を見計らい、来年度は家族会を開催したい」と考えているが、利用者家族等アンケート結果もあり、事業所運営に関して、家族の理解や協力がより得られるような工夫が行われることを期待したい。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。	○	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応している。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善している。	◎	/	○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時や電話にて生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や家族会などで報告したり、日々の生活をスライドショーで見てもらっている。新規採用などがあれば紹介している。	×	/	△		
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。	/	/	/		
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。	/	/	○		
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。	/	/	/		
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	◎	/		
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/		
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/		
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるなど、日常的なおつきあいをしている。	△	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっているが、現在コロナ禍の為減っている。	/	/	/		
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしているが、現在コロナ禍の為減っている。	/	/	/		
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっているが、現在コロナ禍の為減っている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。	○	/	○	法人・事業所として、開催日時やミニ介護講座を含めた年間の運営推進会議計画を作成し、奇数月の第3木曜を基本に会議を開催している。運営推進会議は、地域住民や利用者、家族などの多くの方の参加が得られている。感染状況により、集合形式の会議が文書開催となることもあるが、会議では、事業所の運営状況を報告するほか、事業所で開催している介護講座の情報などを参加メンバーに送付して意見を募るなど、次回の会議開催時にフィードバックをしている。議事録等は、会議の参加メンバーに報告書を送付するとともに、その他の家族には、年1回家族会の中で報告をしていたが、現在は家族会が休止状態となっており、運営推進会議の内容は一部の家族にしか伝わっていないため、全ての家族に報告して周知されるように、職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	利用者さんのサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じた研修もしている。	/	/	/	法人・事業所として、年間の社内研修計画を作成し、計画的に職員のスキルアップに努めるとともに、資格取得に向けた支援も行われている。以前は、忘年会や日帰り旅行を実施したり、5年勤続の職員に北海道旅行に行ってもらったりするなど、福利厚生を充実させることができていたが、現在は感染対策で行えないものもある。また、職員から出された意見や要望は、管理者を通して代表者に伝えることができていることもあり、職員は働きやすい環境とされており、離職者も少なく、職員の平均的な勤続年数は長い。さらに、管理者は職員から意見を聞くとともに、相談にも応じることができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるように取り組んでいる。	◎	勉強会は、年間計画を立て全職員が参加出来るようにし、報告書を出している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりにも努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。自ホームの運営推進会議に参加してもらうなど、同業者と交流する機会を持っている。また、社外の研修にも参加し、意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	少しでもストレスが軽減できるように話し合い機会を設け、環境も改善している。また、毎年ストレスチェックを行い、希望者に対応している。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	◎	事業所には、「身体拘束廃止検討委員会」を設置され、3か月に1回身体拘束や虐待の防止などの研修を実施している。虐待や不適切なケアを職員は十分に理解し、無意識の行為等の不適切なケアが見られた場合には、互いに職員同士で注意し合うとともに、管理者へ報告し、確認の上で注意喚起をしている。また、個別の事例は、申し送り時に共有するとともに、職員間で話し合う機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	法人内の勉強会で学び、報告するようになっている。出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りに動いている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	法人内の勉強会や消防職員に講師で来てもらって人工呼吸やAEDの使い方など教えてもらっている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書きもっている。毎月ヒヤリハットを書きもらい、毎月の職員会議で検討している。業務改善報告書も書きもっている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。その都度、ケース検討会を行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りに努めている。	○		○	利用者や家族から、運営推進会議などの機会に意見を聞いている。日頃から、職員は話しを傾聴する姿勢で利用者や家族と接し、管理者は、「率直な意見や要望を伝えてもらっている」と感じている。また、職員は、「管理者へ相談や意見を言いやすい」と感じている。また、管理者等は、申し送りや職員会議の中で出された意見を検討し、より良いサービスの提供等に繋げることができている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りに努めている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	定期的に各ユニットを回って、利用者さんと職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。サービスの評価結果を職員に周知し、目標達成に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議の中で、評価結果や目標達成に向けた取り組み状況等を参加メンバーに報告しているが、コロナ禍が続く、家族会が休止状態となつており、全ての家族までには報告することができていない。事業所内では、1階と2階で職員等が相互にモニターすることを検討していたが、感染対策のために、思うような取り組みが行えていない。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取り組みが十分に理解されていないことが窺えるため、今後は家族会等を活用して、家族に周知するとともに、感染状況が落ち着いた際には、目標達成へ向けた取り組み状況について、運営推進会議の参加メンバーや家族に協力を呼びかけてモニターをしてもらうなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	△	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺っている。また1階と2階でモニターをするよう取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症拡大の為、制限があり、十分にできていない。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課をお願いして勉強会を開催している。				法人・事業所として、年間の避難訓練計画を作成し、毎月、地震や津波などの様々な災害を想定した避難訓練を実施している。年2回消防署立ち会いのもと、火災の避難訓練を実施している。また、法人内の連携を強化するとともに、代表者は災害時を想定した地域のネットワークにも参画し、支援体制の構築にも努めている。訓練の状況は、運営推進会議の中でも報告し、防災の話合いも行われているが、家族が来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、安心安全な災害の備えが十分に伝わっていないことが窺えるため、さらなる周知方法の工夫など、職員間で検討することを期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。					
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。					
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的な連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。		△	◎		○
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。警察の方は、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。市の危機管理課に講師で来てもらい災害について勉強会を行っている。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。				法人・事業所として、併設の事業所等と協力し、毎月認知症カフェを開催している。カフェには利用者も参加するとともに、地域住民などの参加者にも認知症を理解してもらえるような機会としても役立っている。また、事業所は地域からの認知度が高く、地域の介護や福祉の総合相談窓口として様々な相談に対応しているほか、積極的に実習生の受け入れなども行われている。さらに、市行政と連携し、代表者が地域の学校などに出向き、介護講座や認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信も行われている。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。			○		◎
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれているがコロナ禍の為、少なくなっている。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和元年7月より、フィリピンからの実習生を受け入れている。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。					◎

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 4 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 35名	(依頼数) 41名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホームフルーツの家 2ユニット
記入者(管理者) 氏名	伊藤 淳
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>評価結果と目標達成計画を1階と2階でモニターをするように取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染症で、交流ができない事もあり、思うように取り組めていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設して24年目を迎える事業所は、現在の場所に新築移転されてからも、バリアフリー構造の建物内に清潔感が保たれているほか、リビングが中庭に面して配置され、開放感がある。同じ建物には、居宅介護支援事業所や通所介護、訪問看護、訪問介護事業所が併設され、広い駐車場も完備されている。以前は、併設するデイサービスの利用者との交流も行われていたが、感染対策もあり現在は休止している。コロナ禍が続き、休止されていた認知症カフェは、今年度から再開して毎月開催できるようになり、多方面から参加を得て、利用者との交流も図られるようになっている。事業所には、面会や外出などの制限が継続されているが、感染対策を講じた上で、季節の花を見に行ったり、事業所内で夏祭りを開催したりするなど、利用者が気分転換を図りながら、楽しみのある生活を送れるよう支援している。また、法人として、年間の社内研修計画を作成し、計画的に研修を実施して職員のスキルアップに努めていることもあり、職員の意識も高く、利用者の心身機能の維持・向上に向けた取り組みを実践している。さらに、法人・事業所として、外国人の技能実習生の受け入れに協力したり、市行政と連携して、代表者が介護教室や認知症サポーター養成講座の講師を務めたりするなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信を行うことができている。</p>
---------------------------------------	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	入居時、前利用事業所情報や聞き取りにて希望等の把握をしている。	○	/	○	
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	前利用事業所情報や家族さんより聞き取りを行っている。	/	/	/	入居時に、管理者等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などを聞き取り、アセスメントシートに記録している。日々の暮らしの中で、新たに得られた情報は赤字で追記するなど、職員間で共有をしている。入居後にも、日常の関わりの中で、担当職員が利用者から話しを聞くほか、表情などを観察し、思いを推し量るよう努めている。また、介護計画の見直し時期には、再度利用者や家族へ意向を聞き取るなど、アセスメントシートの情報も更新されている。
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居時に家族さんから情報収集をしたり、家族さんや知人さんの面会時や電話などで情報収集し確認している。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	経過記録やフェイスシートに記録している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	普段の生活状況から話の内容などに注意して、本人の思いを見逃さないようにしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人より聞き取りをして、家族さんや知人さんの面会時に情報収集し確認している。	/	/	○	入居の際に、管理者等は利用者や家族から、これまでの暮らし方などを聞き取るとともに、把握した情報はアセスメントシートに記録している。入居前に、利用者が入院中や施設入所中でも、管理者等は病院等に出向き、面会をして話しを聞くほか、病院の関係者や介護支援専門員等から情報を得ることもある。入居後にも、日々の会話の中などで、担当職員が新たな情報を聞くこともあり、アセスメントシートに追記するほか、申し送りを活用して職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	家族さんより聞き取りを行ったり、本人が言った言葉や態度を見て把握し、アセスメントシートに記録したり、申し送りなどで伝えるようにしている。本人の考えやこれまでの暮らしや生活状況などから要因を検討している。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	午前・午後・夜間に分けて、別紙に記載し、経過記録に記載するようにしている。また、申し送りなどにより報告している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	担当者会議や申し送りなどで、本人的にはこうではないだろうかと検討している。本人さんとも話をして情報を得ている。	/	/	○	担当職員を中心に把握した利用者の情報を、詳細にまとめたアセスメントシートを作成している。訪問診療や訪問看護の専門的な意見を含め、事前に把握した情報をもとに、日々の申し送りや担当者会議などを活用して、職員間で話し合って情報共有するとともに、利用者本人の視点に立ってより良い支援方法などを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	ケアプランのニーズに記載するようにしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	ケアプランの本人や家族の意向欄に記載するようにしている。	/	/	/	
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	担当者会議などの結果を元にケアプランを作成している。	○	/	○	事前に、利用者や家族から意向を聞き、主治医から診療報告書等で情報や指示をもらうことができている。把握した情報をもとに、計画の原案を作成し、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者が取りまとめて介護計画を作成している。利用者や関係者から出された意見を計画に反映するとともに、利用者や家族に説明し、同意を得ている。
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	徐々に悪化してきたとしても、極力今までの生活状況を変えないようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんの協力依頼は出来ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	経過記録の中にケアプランを入れ、毎回確認出来るようにして、いつでも見られるようにしている。	/	/	/	◎ 介護計画作成の過程に参画し、職員は利用者一人ひとりの計画の内容を把握している。利用者個別のアセスメントシートと介護計画は、個人ファイルに経過記録用紙と一緒に綴じられ、記録を記載する際に職員は確認できるようになっている。また、新たな気づきや発見などがあつた場合には、アセスメントシートに赤字で追記し、職員間で共有しやすくなっている。さらに、日々の記録は個別具体的に記載され、月末にモニタリングを実施し、今後のより良い支援に繋げている。AP欄への記載が少なく、利用者の状況等を記載し、より分かりやすい記録の充実も期待されるが、代表者は負担もあり、「一人ひとりの職員に、そこまで求めるのは難しい」と考えている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	日々行う中で変化があつた時は、申し送りなどで報告し今後の支援を検討している。	/	/	/	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	1年間で見直し、退院や大きな変化があつた時には見直しを行っている。	/	/	/	◎ 介護計画は、短期目標の期間に合わせて、6か月に1回見直しをしている。入居直後や退院時など、3か月で計画の見直す時もある。新たな要望や変化が見られない場合も、毎月モニタリングを実施し、利用者一人ひとりの現状確認をしている。また、利用者の心身状況に変化が見られた場合には、担当者会議を開催し、現状に即した新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	経過記録に月末付近で確認するようにしている。	/	/	/	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	大きな変化や退院時などは、モニタリング、アセスメント、担当者会議を行い、ケアプラン変更している。	/	/	/	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	毎月の部署別会議後検討したり、申し送り時に行っている。	/	/	/	◎ 事業所では、毎月主任クラスで業務連絡会を実施するほか、その後に、各階のユニット合同の部署別会議を開催している。1階と2階で、会議の開催時間をずらすなどの業務を協力をするとともに、休日の職員には手当を支給して出席してもらうなど、可能な限り全ての職員が参加できるよう工夫されている。また、部署別会議の中では、内部研修や勉強会を実施するとともに、ケース検討会や担当者会議を行い、利用者一人ひとりの情報共有が図られている。さらに、緊急案件がある場合には、出勤職員でその都度検討をしている。加えて、会議録は全ての職員が確認を行い、確認後にはサインを残すとともに、参加できなかった職員には、管理者が個別に内容を伝え、確実な伝達に繋げている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	責任者は、職員の意見を否定せず、職員の意見が出なくなった時や意見を求められたら発言するようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	会議内容を示した書類を全職員に回覧しサインしてもらっている。会議に参加できなかった職員に対しては責任者が改めて説明している。	/	/	/	
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	個別の経過記録とは別に、1日単位の記録用紙を作り、申し送りや連絡事項などを記載している。皆が確認できるまで、書くようにしている。回覧は、一つにして、サインするようにしている。	○	/	/	◎ 日々の申し送りを実施している。利用者全員の介護記録と排泄記録が1日単位にまとめられ、連絡事項なども記載された様式を使用し、職員は確認後にサインをしている。また、回覧や議事録などの確認後に、サインを残す仕組みがあるほか、全ての職員が確認できるまで、申し送りを継続している。さらに、医師の指示は、介護記録のAP欄に記載等をして赤枠で囲むなど、いずれの職員が見ても分かりやすくなっている。
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	希望があつた内容は、当日の職員で検討し、上司へ報告し実行している。利用者さんが偏りがないように検討している。	/	/	/	○ 更衣の際の洋服のほか、水分補給のコーヒーやココア、紅茶の飲み物など、日々の暮らしの様々な場面で、職員は声をかけ、利用者が自己決定できるよう支援している。自己決定が難しい利用者には、状況に応じて、いくつかの選択肢を提示するなどの工夫をしている。日々、職員は利用者が笑顔で生活を送れるように心がけた支援に努め、会話の際に、利用者の目線に合わせて笑顔で接したり、一人ひとりが楽しめるような食事や若い頃の話題を提供したり、不安な気持ちを持つ利用者には、家族に会える日を知らせて、安心してもらえるような声かけをするなどの対応をしている。訪問調査日には、一人ひとりがそれぞれの会話を楽しんだり、シグソーバズルやマスメゲームなどに真剣に取り組んだりする利用者の様子を確認することができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	入浴時の服選びは、本人に任せ、十分出来ない人には、口頭での支援をしている。10時の飲み物は選べるように一覧表を作成し、選んでいる利用者さんもいる。	/	/	/	
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	起床や就寝は、本人に任せ、好きな時間で過ごしてもらっている。食事は、1時間30分の猶予を設けている。入浴は、何回か声掛けするようにしている。	/	/	/	
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	目線を合わせ、名前呼び、笑顔で対応するように心がけている。	/	/	/	
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	言葉を発しなくても、表情や動きを見ながら、目線を合わせて声かけをするようにしている。肩や背中などを摩りながら話を聴くようにしている。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	◎	法人全体で勉強会を実施し学び、研修内容の報告書を各自で書いている。	○	◎	◎	◎ 法人として、計画的に社内研修を実施され、職員は常に利用者の人権やプライバシー保護を意識した穏やかな対応に努めている。事業所内には、職員同士も声をかけて注意し合える風土づくりが行われ、イライラするなど、ストレスを抱えているような職員に気づいた場合には、他の職員がケアを交代した対応するなど、利用者に対して、適切な支援が行われるようフォローをしている。また、居室への出入りに際し、職員は必ずノックや声かけをするなど、不在の場合にも、洗濯物を入れや清掃などの入室する理由を説明した上で、事前に利用者到了承を得てから、入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	一人一人入浴をし、ドアを閉め、タオルを使用するなど、排泄時も含め露出を出来る限り少なくしている。	/	/	/	
		c	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	入る時は、ノックし、入室時には挨拶をして、出る時にも、声かけをしている。不在時に訪れる時も、声を掛けるようにしている。	/	/	/	
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	法人全体で勉強会を実施し学び、自宅や地域では仕事の話はしない様になっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	人生の先輩として会話の中において教えてもらったり、下ごしらえや洗濯物たたみ等を行ってくれたら、感謝の気持ちを伝えるようにしている。				職員は、利用者同士の性格や関係性を把握し、配席などの考慮をしている。また、職員が利用者と一緒に過ごすことで、大きなトラブルに発展しないようフォローしている。中には、パズルの邪魔をしたり、話す口調がきつくなったりする利用者もあり、距離を置くほか、配席を変えるなどの工夫した対応もしている。さらに、利用者同士が体調を気遣って声をかけたり、面倒を見たりする姿も見られる。中には、孤立しがちな利用者もあり、職員が声をかけ、利用者同士の間を取り持つような支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	職員と利用者さんだけではなく、同世代の利用者さん同士の関わりも大切である。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者さん同士が、話したり手伝い合っている時には、見守るようにしており、トラブルにならない様になっている。また、仲の良い利用者さん同士を同じテーブルにしたり、同じ時期に外出しやすくするようにして、孤立しない様に配慮している。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	職員はお互いの話をゆっくりと聴き、少しでも不安や不満が残らない様になっている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとよくお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所ドライブなどで出かける事はありますが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。コロナ感染症予防の為面会制限もあるので電話で話せる機会を作っている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせるように努めている。併設の通所介護が外出の際に、乗車定員に余裕があれば、声を掛けてもらい一緒に外出もしている。気候の良い日は、車椅子で外庭や近くを散歩に行ったりしている。重度の方で、体調の良い時は庭に出て散歩をしたり、花を見たりしている。	○	○	○	コロナ禍が続き、事業所の敷地外へ外出する頻度は減少しているが、敷地内は広く、日常的に歩行をしたり、外気浴をしたりすることは十分にでき、利用者の気分転換に繋がっている。感染対策を講じた上で、ドライブをして、桜や芝桜、藤の花などの花を見に行ったり、8月には敷地内で夏祭りを開催したりするなど、徐々に以前のような支援が再開され、利用者には喜ばれている。また、2階のベランダでは、スイカやひまわりを利用者と一緒で育てられ、重度の利用者もベランダに出て、生長の様子を楽しんでいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	コロナ禍で地域の方との関りが減っているのが現状である。毎月、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て、認知症カフェに参加させてもらっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	◎	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。				事業所では、利用者の心身機能の維持や向上を目指し、状況に応じてパズルやマスメゲームなどで脳の活性化を図るとともに、1日2回のラジオ体操や、食事前に手の体操を職員と一緒にし、身体を動かす機会を設けるなどの支援に取り組んでいる。また、車いすを自走できる利用者には、職員が見守りながら自走してもらうなど、一人ひとりのできることをアセスメントし、介護計画の中に取り入れ、継続できるような支援にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように声掛け見守りをしていく。家事全般が得意な人には、日課としてもらうようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。				日常の関わりの中で、職員は、利用者が何をしたいか、何が出来るかを把握し、張り合いのある生活を送れるよう支援している。洗濯物たたみやテーブル拭きなど、利用者に見守りしてもらった後には、必ず職員は「ありがとうございました」とお礼を伝え、やりがいを感じてもらえるようにしている。お花の先生をしていた利用者には、事業所内で花を生けてもらうなどの出番作りを行うなど、楽しみのある生活が送れるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者が何をしたいかを常に考えながら支援している。	○	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようにしている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をどいてもらったりしている。				<p>事業所では、日々利用者が自尊心やプライドを保ちながら生活を送れるような支援に努めている。起床時等に、職員と一緒に鏡を見ながら整容をしたり、目ヤニが付いていると、コットンでやさしく拭いたり、顔を自分で洗うことができない利用者には、濡れタオルで拭くなどの対応をしている。中には、自分で化粧を行い、夜には、きちんと自分で化粧を落としてから寝る利用者もいる。また、月1回の訪問美容で、好みの髪形に整えるほか、希望に応じて、馴染みの美容室へ出かける利用者もいる。重度の利用者も含めて、利用者自身の好きな洋服や髪型を考慮した支援もしている。さらに、食事の際に、安易に食事エプロンを使用せず、代用してタオルを使用している。加えて、食べこぼしや着衣の乱れが見られた場合には、他の利用者に気付かれないように、職員はさりげなくフォローするなどの気配りが行われている。100歳のお祝いなど、記念すべき時には、ドレスアップをする利用者の姿も見られるなど、張り合いが持てるような支援にも取り組んでいる。</p>
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようにしている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄などもできるだけ聞くようにしている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しむよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようにもっている。衣替え等もスタッフと一緒にやっている。夏祭りには馴染みの甚平や法被を着て頂いている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりかばっている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。声を掛けず身振り手振りで伝えたり、小声で伝えたり、さりげなく直したりしている。職員が気配りできるように努力している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	△	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行っている。コロナ禍の為行けていない。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。				
		g	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	◎	社内研修で学べる機会があり、理解できている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや食器の下膳は、出来る利用者さんが時々してくれている。			○	<p>法人の栄養士が献立を作成し、専属の職員が厨房で調理を行い、利用者の好みやアレルギーの有無のほか、季節の行事や旬の食材などが考慮され、バランスの取れた食事を利用者に提供している。利用者は、食材の下ごしらえやテーブル拭き、食器の片付けなど、リビングでできることを手伝っている。箸やスプーンは、入居時に馴染みの物を持ち込んでもらい、基本的に使用してもらっているが、食器類は、事業所で用意した滑りにくい物や主食が見えやすい色つきの物を用意して、なるべく利用者自身で食べられるようにしている。また、利用者の嚥下状態に合わせて、やわらかさや刻みなど、食べやすい食の形態で提供している。菜園で採れた野菜や果物を使用することで、利用者は季節を感じる事ができる。以前は、食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂ることができていたが、感染予防のため、職員は見守りや食事介助に専念し、現在は別の場所で同じ食事をしている。リビングには、1日の食事の献立が掲示され、リビングに面したガラス越しに見える厨房の様子が見えるほか、匂いなどから食事が待ち遠しくなるなど、利用者を楽しみを感じさせてくれている。食事前には、重度の利用者もリビングに出て食事を摂っており、他の利用者と一緒に献立の説明を聞くほか、手の体操や歌を歌うなど、食事の雰囲気を感じることができるよう配慮も行われている。</p>
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでいる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんとも食事を楽しんでもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手な物、アレルギーにも配慮してくれている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。調理中が分かるように少し窓を開けて音やにおいが分かるようにしている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、滑りにくい物を使っている人もいる。主食を見えやすくする為、色のついたお椀を使用して自分で食べられるようにしている。使いやすいスプーンやフォークを使ってもらっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んでなるべく一緒に食べるようにしている。介助のいる利用者さんのそばで食べたりの配慮をしている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事の道具具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、コーヒーやジュースなどに変更して摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望を聞いて、栄養士さんが献立をたててくれている。			◎	
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。	/	/	/	月2回、利用者は訪問歯科診療を受けている。歯科衛生士による利用者全員の口腔内のチェックのほか、口腔ケアの指導もあり、職員は利用者の口腔内の健康状態を把握するとともに、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。歯磨きができる利用者には、職員が見守りや口腔内の確認を行うとともに、自分で歯磨きができない利用者には介助をするなど、日常的に口腔内の清潔保持に努めている。約7年間に渡り、歯科医と歯科衛生士に来院してもらい、指示やアドバイスを受けることができていたが、今までに得た職員の知識や技術を活かして、訪問調査月である10月からは、職員間で適切な口腔ケア支援を行うようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回ポリドントもしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導もしてくれている。毎食、歯磨きを促し、出来ない利用者さんには、職員が介助で磨いたり、うがいをしてもらったりして、出血の有無など確認している。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	◎	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。リハビリパンツで過ごす利用者も多いが、排泄パターンを把握して、職員が声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツを履いて生活を送ることのできている利用者もいる。状況に応じて、ポータブルトイレを居室に置いている利用者もいる。状態に応じて、パッドやリハビリパンツなどの排泄用品の使用が必要な場合には、申し送りや職員会議等の中で適切な用品を職員間で検討するとともに、家族に了承の上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。イレウスなど注意している。主治医や看護師にも相談している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。	/	◎	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解をもらって使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、ホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	本人さんの希望時間を確認してから入浴してもらっている。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらっているようにしている。	◎	/	◎	事業所では、入浴できる曜日や時間帯を固定せずに、利用者の希望に応じた支援をしている。午前と午後の入浴も可能で、勤務体制もあるが、16時頃までの入浴を可能としている。希望があれば、毎日の入浴も可能で、中には、月に25日程度入浴している利用者もいる。また、入浴を拒む利用者には、曜日や時間帯を変えて、職員が声かけするなどの工夫を行い、少なくとも週2回は入浴できるよう支援することができている。夏場には、シャワー浴の対応をすることもあるが、利用者が基本的に湯船に浸かれるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくりと入浴できるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強いのないように努めている。時間帯を考えたリスタッフを交代して、気持ちよく入ってもらいよう工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。				事業所では、なるべく服薬に頼らない方針で、日中の過ごし方などにも注視し、夜間に利用者が良眠できるような支援に努めている。寝付けない利用者には、22時までリビングでテレビを見てもらうほか、それに降にも、事務所で職員と会話をするなど、利用者が自然と眠たくなるまで、ゆっくりと過ごしてもらっている。中には、睡眠導入剤を使用している利用者も数名いるが、内服時間を22時頃に、眠れない場合などに薬を服用してもらっている。また、昼寝の時間が長くないように、職員は利用者にも声をかけて、日中の活動を支援するなど、生活リズムを整えるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をしてもらっている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっており、ゆっくり話せる環境づくりをしている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	夏祭りでは、自分で買う事を楽しんでもらっている。パン屋さんの来訪があり、券とパンを引き換えて、買い物している気分を味わってもらっている。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	必要なものがあれば、立て替えをしている。事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物をしている。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	△	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしているが、コロナ禍で十分にはできていない。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。事務で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない場合は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	○		○	外部の定期的な病院受診は、家族対応を原則としているが、県外に住む家族に対応できない緊急時など、職員は同行支援をしている。また、コロナ禍で行動制限が設けられた中でも、親族の法要や葬祭へ参列してもらうなど、利用者や家族から出された要望には、可能な限り応えられるように職員間で検討を行い、その時々状況に合わせて、柔軟な対応をしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	◎	広い駐車場の奥には、柿の木やサツマイモが植えられた畑があるほか、向かい合った両ユニットの玄関アプローチはすっきりと整備され、広い縁台も置かれるなど、利用者や来訪者がくつろげる空間となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに応じた物を飾るようにしている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○	◎	○	広々とした玄関ホールには清潔感があり、季節の絵や観葉植物が飾られたスペースは来訪者を迎えてくれる。各ユニットのリビングは、中庭に面して配置され、リビングから見える中庭の植栽が、利用者に季節を感じさせてくれる。共用空間は採光が差し込んで明るく、掃除や換気が行き届き、不快な音や光、臭いなどはなく、花や絵が飾られるなど、心地良い空間となっている。訪問調査日には、利用者がソファに座ってくつろいだり、パズルやゲームをして楽しんだり、職員と穏やかに会話するなど、思い思いの場所で過ごす利用者の様子を見ることができた。また、リビングからは、ガラス窓で仕切られた厨房で調理する様子もよく見えるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気をつけている。定期的に掃除をし、臭いにも気を付けている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。月に1回掲示板を作成し、行事やイベント情報や写真などを掲示したり、行事ごとの飾りもしている。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、本棚など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。本が好きな方は、本棚を持って来られ、いつでも読書ができるようにしている。	◎	/	○	居室にはエアコンやベッド、チェスト、テレビ、クローゼットが備え付けられているほか、利用者は馴染みのものを持ち込むこともできる。中には、自宅からテーブルを持ち込んだり、写真や花を飾ったりするなど、好みの空間づくりを行い、居心地良く過ごしている利用者もいる。また、転倒の心配がある利用者の居室には、床に絨毯を敷くなど、安全への配慮も行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手摺りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。	/	/	○	建物内はバリアフリー構造で、利用者の動線上に、手すりが設置され、安全に移動できるようになっている。ユニット内にはトイレが3か所あり、分かりやすい表示も行われ、利用者が混乱しないように配慮されている。また、各居室には表札があるほか、様々なフルーツの写真の表示を目印にして、利用者が迷うことなく自立した生活が送れるように工夫している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見れるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていること、異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	基本ユニットの入り口には、鍵をかけていない。やむを得ず職員が目が届かない状況の時や利用者さんが落ち着かない時だけ施錠している。居室は、鍵はかけていない。	◎	◎	○	職員は、日中に玄関などの出入り口に鍵をかけることの弊害を理解している。事業所では、玄関や1階ユニットの出入りに鍵をかけておらず、玄関はドアの開閉に合わせてチャイムが鳴るなど、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。2階ユニットのみ、出入り口の付近に階段があるため、利用者の安全面を配慮してユニットの入り口を施錠しているが、外に出ようとする利用者を制止することをせず、職員が一緒に付き添い、事業所内を一回りして納得してもらうなど、元の場所へ戻るような支援も行われている。また、同一階のユニット間は、利用者同士が自由に行き来できるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着かない時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。変化や追加があれば、その都度、赤で記入している。訪問診療所もカルテに入れている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による住診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切にし、馴染みのかかりつけ医での受診もしている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の同意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約及び口頭で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	代表及び看護師が主治医、病棟師長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間も有り、相談もしている。情報や気づきは常に看護師に報告をしており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	カルテに薬の内容を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも面会時や、電話で伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ内服するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認するようにしている。薬の変更があった時は必ず申し送りして伝えている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。				法人・事業所として、「看取り指針及び同意書」を整備し、入居時に、対応できることなどを説明するとともに、利用者や家族に延命の希望等を確認している。状態が悪化し、看取りの時期が近くなった場合には、家族や主治医、職員を交えて話し合うとともに、利用者や家族の意向を大切にしながら方針を共有し、看取り介護を行っている。また、主治医や訪問看護との連携は取れているが、医療依存度の高い利用者への看取り支援は困難であり、入居時に家族に説明して理解を得ている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	◎	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュとヒビソール、ペーパータオルを設置している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆっくりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などでもできるだけ参加してもらえるように努めている。	/	/	/	以前は、年1回家族会を開催するほか、多くの家族が参加してイベントや行事等で交流を図ることができていた。現在は、感染対策のために建物内での面会対応もできておらず、イベントへの参加協力の呼びかけは行われていない。家族との面会は、屋外や窓越しの対応となっており、来訪時には、管理者や代表者から利用者の状況を説明している。また、利用者の状況は、3～4か月に1回、手紙で知らせているが、頻回な連絡はできていない。事業所の運営上の事柄や出来事は、運営推進会議や家族会の中で報告していたが、現在は家族会が開催できていないため、以前のような家族への十分な情報伝達まではできていない。事業所として、「感染状況を見計らい、来年度は家族会を開催したい」と考えているが、利用者家族等アンケート結果もあり、事業所運営に関して、家族の理解や協力がより得られるような工夫が行われることを期待したい。
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように参加の呼びかけをしたり、行事の内容を掲示板や社内報で報告するようにしている。	○	/	△	
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	家族さんや利用者さんの思いを本音が聞けるように努め、話し合ったり相談して対応している。運営推進会議や家族会などを開催して、家族さんからの意見を聞いて改善している。	◎	/	○	
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時や電話にて生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。	/	/	/	
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	運営推進会議や家族会などで報告したり、日々の生活をスライドショーで見てもらっている。新規採用などがあれば紹介している。	×	/	△	
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。	/	/	/	
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。	/	/	/	
III. 地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	◎	/	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントにも参加している。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっている。又、月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。	/	○	○	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/	
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらいなど、日常的なおつきあいをしている。	△	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流があり、イベントに参加させてもらっている。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらっているが、現在コロナ禍の為減っている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	△	近所の保育園や事業所との交流があり、観覧会や運動会イベントに招待してくれたり、訪問してくれている。又、認知症カフェに来てくれるボランティアの方が、コンサートを開いたり、手品をしてくれたりしているが、現在コロナ禍の為減っている。	/	/	/	
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	△	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっているが、現在コロナ禍の為減っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。	○	/	○	法人・事業所として、開催日時やミニ介護講座を含めた年間の運営推進会議計画を作成し、奇数月の第3木曜を基本に会議を開催している。運営推進会議は、地域住民や利用者、家族などの多くの方の参加が得られている。感染状況により、集合形式の会議が文書開催となることもあるが、会議では、事業所の運営状況を報告するほか、事業所で開催している介護講座の情報などを参加メンバーに送付して意見を募るなど、次回の会議開催時にフィードバックをしている。議事録等は、会議の参加メンバーに報告書を送付するとともに、その他の家族には、年1回家族会の中で報告をしていたが、現在は家族会が休止状態となっており、運営推進会議の内容は一部の家族にしか伝わっていないため、全ての家族に報告して周知されるように、職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	利用者さんのサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を出している。状況や結果は報告できていないこともあるが、事業所内全体で、改善するようになっている。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じた研修もしている。	/	/	/	法人・事業所として、年間の社内研修計画を作成し、計画的に職員のスキルアップに努めるとともに、資格取得に向けた支援も行われている。以前は、忘年会や日帰り旅行を実施したり、5年勤続の職員に北海道旅行に行ってもらったりするなど、福利厚生を充実させることができていたが、現在は感染対策で行えないものもある。また、職員から出された意見や要望は、管理者を通して代表者に伝えることができていることもあり、職員は働きやすい環境とされており、離職者も少なく、職員の平均的な勤続年数は長い。さらに、管理者は職員から意見を聞くとともに、相談にも応じることができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	◎	勉強会は、年間計画を立て全職員が参加出来るようにし、報告書を出している。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	◎	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりにも努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。自ホームの運営推進会議に参加してもらうなど、同業者と交流する機会を持っている。また、社外の研修にも参加し、意見交換やサービスの質の向上に取り組んでいる。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	◎	少しでもストレスが軽減できるように話す機会を設け、環境も改善している。また、毎年ストレスチェックを行い、希望者に対応している。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。	/	/	◎	事業所には、「身体拘束廃止検討委員会」を設置され、3か月に1回身体拘束や虐待の防止などの研修を実施している。虐待や不適切なケアを職員は十分に理解し、無意識の行為等の不適切なケアが見られた場合には、互いに職員同士で注意し合うとともに、管理者へ報告し、確認の上で注意喚起をしている。また、個別の事例は、申し送り時に共有するとともに、職員間で話し合う機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気づくりを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	◎	法人内の勉強会で学び、報告するようになっている。出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りに動いている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うよう努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で、その状況に応じての支援ができるように努めている。	/	/	/	
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	◎	法人内の勉強会や消防職員に講師で来てもらって人工呼吸やAEDの使い方など教えてもらっている。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討している。業務改善報告書も書いてもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。その都度、ケース検討会を行っている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りにも努めている。	○	/	○	利用者や家族から、運営推進会議などの機会に意見を聞いている。日頃から、職員は話しを傾聴する姿勢で利用者や家族と接し、管理者は、「率直な意見や要望を伝えてもらっている」と感じている。また、職員は、「管理者へ相談や意見を言いやすい」と感じている。また、管理者等は、申し送りや職員会議の中で出された意見を検討し、より良いサービスの提供等に繋げることができている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	◎	定期的に各ユニットを回って、利用者さんと職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。	/	/	/	
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。	/	/	◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。	/	/	/	外部評価の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。サービスの評価結果を職員に周知し、目標達成に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議の中で、評価結果や目標達成に向けた取り組み状況等を参加メンバーに報告しているが、コロナ禍が続き、家族会が休止状態となっており、全ての家族までには報告することができていない。事業所内では、1階と2階で職員等が相互にモニターすることを検討していたが、感染対策のために、思うような取り組みが行えていない。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取り組みが十分に理解されていないことが窺えるため、今後は家族会等を活用して、家族に周知するとともに、感染状況が落ち着いた際には、目標達成へ向けた取り組み状況について、運営推進会議の参加メンバーや家族に協力を呼びかけてモニターをしてもらうなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。	/	/	/	
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺っている。また1階と2階でモニターをするよう取り組んでいる。新型コロナウイルス感染症拡大の為、制限があり、十分にできていない。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。				法人・事業所として、年間の避難訓練計画を作成し、毎月、地震や津波などの様々な災害を想定した避難訓練を実施している。年2回消防署立ち会いのもと、火災の避難訓練を実施している。また、法人内の連携を強化するとともに、代表者は災害時を想定した地域のネットワークにも参画し、支援体制の構築にも努めている。訓練の状況は、運営推進会議の中でも報告し、防災の話合いも行われているが、家族が来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、安心安全な災害の備えが十分に伝わっていないことが窺えるため、さらなる周知方法の工夫など、職員間で検討することを期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。					
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。					
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的な連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。		△	◎		○
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。警察の方は、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。市の危機管理課に講師で来てもらい災害について勉強会を行っている。					
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	○	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。				法人・事業所として、併設の事業所等と協力し、毎月認知症カフェを開催している。カフェには利用者も参加するとともに、地域住民などの参加者にも認知症を理解してもらえるような機会としても役立つ。また、事業所は地域からの認知度が高く、地域の介護や福祉の総合相談窓口として様々な相談に対応しているほか、積極的に実習生の受け入れなども行われている。さらに、市行政と連携し、代表者が地域の学校などに出向き、介護講座や認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信も行われている。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。			○		◎
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれているがコロナ禍の為、少なくなっている。					
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和元年7月より、フィリピンからの実習生を受け入れている。					
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、イベントにも参加している。年1回、夏祭り大会を開催し、地域の方にも参加してもらっている。					◎

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 4 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 35名	(依頼数) 41名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホームフルーツの家 3ユニット
記入者(管理者) 氏名	子守 由美
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>評価結果と目標達成計画を1階と2階でモニターをするように取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染症で、交流ができない事もあり、思うように取り組めていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設して24年目を迎える事業所は、現在の場所に新築移転されてからも、バリアフリー構造の建物内に清潔感が保たれているほか、リビングが中庭に面して配置され、開放感がある。同じ建物には、居宅介護支援事業所や通所介護、訪問看護、訪問介護事業所が併設され、広い駐車場も完備されている。以前は、併設するデイサービスの利用者との交流も行われていたが、感染対策もあり現在は休止している。コロナ禍が続き、休止されていた認知症カフェは、今年度から再開して毎月開催できるようになり、多方面から参加を得て、利用者との交流も図られるようになっている。事業所には、面会や外出などの制限が継続されているが、感染対策を講じた上で、季節の花を見に行ったり、事業所内で夏祭りを開催したりするなど、利用者が気分転換を図りながら、楽しみのある生活を送れるよう支援している。また、法人として、年間の社内研修計画を作成し、計画的に研修を実施して職員のスキルアップに努めていることもあり、職員の意識も高く、利用者の心身機能の維持・向上に向けた取り組みを実践している。さらに、法人・事業所として、外国人の技能実習生の受け入れに協力したり、市行政と連携して、代表者が介護教室や認知症サポーター養成講座の講師を務めたりするなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信を行うことができている。</p>
---------------------------------------	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気心がけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で情報の共有を行っている。	○	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などを聞き取り、アセスメントシートに記録している。日々の暮らしの中で、新たに得られた情報は赤字で追記するなど、職員間で共有をしている。入居後にも、日常の関わりの中で、担当職員が利用者から話しを聞くほか、表情などを観察し、思いを推し量るよう努めている。また、介護計画の見直し時期には、再度利用者や家族へ意向を聞き取るなど、アセスメントシートの情報も更新されている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、利用者さんの発する言葉や表情等を大切に、日々確認しながら支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していただ方には、情報を提供してもらっている。	/	/	○	入居の際に、管理者等は利用者や家族から、これまでの暮らし方などを聞き取るとともに、把握した情報はアセスメントシートに記録している。入居前に、利用者が入院中や施設入所中でも、管理者等は病院等に出向き、面会をして話しを聞くほか、病院の関係者や介護支援専門員等から情報を得ることもある。入居後にも、日々の会話の中などで、担当職員が新たな情報を聞くこともあり、アセスメントシートに追記するほか、申し送りを活用して職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送りに伝えている。	/	/	○	担当職員を中心に把握した利用者の情報を、詳細にまとめたアセスメントシートを作成している。訪問診療や訪問看護の専門的な意見を含め、事前に把握した情報をもとに、日々の申し送りや担当者会議などを活用して、職員間で話し合っている。把握した情報をもとに、利用者本人の視点に立ってより良い支援方法などを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気づきや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	事前に、利用者や家族から意向を聞き、主治医から診療報告書等で情報や指示をもらうことができている。把握した情報をもとに、計画の原案を作成し、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者が取りまとめて介護計画を作成している。利用者や関係者から出された意見を計画に反映するとともに、利用者や家族に説明し、同意を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをするようにしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気心がけており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。				◎ 介護計画作成の過程に参画し、職員は利用者一人ひとりの計画の内容を把握している。利用者個別のアセスメントシートと介護計画は、個人ファイルに経過記録用紙と一緒に綴じられ、記録を記載する際に職員は確認できるようになっている。また、新たな気づきや発見などがあつた場合には、アセスメントシートに赤字で追記し、職員間で共有しやすくなっている。さらに、日々の記録は個別具体的に記載され、月末にモニタリングを実施し、今後のより良い支援に繋げている。AP欄への記載が少なく、利用者の状況等を記載し、より分かりやすい記録の充実も期待されるが、代表者は負担もあり、「一人ひとりの職員に、そこまで求めるのは難しい」と考えている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。				◎ 介護計画は、短期目標の期間に合わせて、6か月に1回見直しをしている。入居直後や退院時など、3か月で計画の見直し時もある。新たな要望や変化が見られない場合も、毎月モニタリングを実施し、利用者一人ひとりの現状確認をしている。また、利用者の心身状況に変化が見られた場合には、担当者会議を開催し、現状に即した新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。				◎ 事業所では、毎月主任クラスで業務連絡会を実施するほか、その後に、各階のユニット合同の部署別会議を開催している。1階と2階で、会議の開催時間をずらすなどの業務を協力するとともに、休日の職員には手当を支給して出席してもらうなど、可能な限り全ての職員が参加できるよう工夫されている。また、部署別会議の中では、内部研修や勉強会を実施するとともに、ケース検討会や担当者会議を行い、利用者一人ひとりの情報共有が図られている。さらに、緊急案件がある場合には、出勤職員でその都度検討をしている。加えて、会議録は全ての職員が確認を行い、確認後にはサインを残すとともに、参加できなかった職員には、管理者が個別に内容を伝え、確実な伝達に繋げている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作り心掛けている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用して、議事録を確認してもらったり、日を改めて個別に伝えている。				
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。	○		◎ 日々の申し送りを実施している。利用者全員の介護記録と排泄記録が1日単位にまとめられ、連絡事項なども記載された様式を使用し、職員は確認後にサインをしている。また、回覧や議事録などの確認後に、サインを残す仕組みがあるほか、全ての職員が確認できるまで、申し送りを継続している。さらに、医師の指示は、介護記録のAP欄に記載等をして赤枠で囲むなど、いずれの職員が見ても分かりやすくなっている。	

(2) 日々の支援

9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。				○ 更衣の際の洋服のほか、水分補給のコーヒーやココア、紅茶の飲み物など、日々の暮らしの様々な場面で、職員は声をかけ、利用者が自己決定できるよう支援している。自己決定が難しい利用者には、状況に応じて、いくつかの選択肢を提示するなどの工夫をしている。日々、職員は利用者が笑顔で生活を送れるように心がけた支援に努め、会話の際に、利用者の目線に合わせて笑顔で接したり、一人ひとりが楽しめるような食事や若い頃の話題を提供したり、不安な気持ちを持つ利用者には、家族に会える日を知らせて、安心してもらえるような声かけをするなどの対応をしている。訪問調査日には、一人ひとりがそれぞれの会話を楽しんだり、シグソーバズルやマスゲームなどに真剣に取り組んだりする利用者の様子を確認することができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。				
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。				
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛け、言葉遣いにも気を付けている。				
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。	○	◎	◎	法人として、計画的に社内研修を実施され、職員は常に利用者の人権やプライバシー保護を意識した穏やかな対応に努めている。事業所内には、職員同士も声をかけて注意し合える風土づくりが行われ、イライラするなど、ストレスを抱えているような職員に気づいた場合には、他の職員がケアを交代した対応するなど、利用者に対して、適切な支援が行われるようフォローをしている。また、居室への出入りに際し、職員は必ずノックや声かけをするなど、不在の場合にも、洗濯物を入れや清掃などの入室する理由を説明した上で、事前に利用者到了承を得てから、入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事無ないように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時外でもそっと見守りしている。				
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っはならないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。				
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けてもらったり教えてもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事はしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性を把握し、配席などの考慮をしている。また、職員が利用者と一緒に過ごすことで、大きなトラブルに発展しないようフォローしている。中には、パズルの邪魔をしたり、話す口調がきつくなったりする利用者もおり、距離を置くほか、配席を変えるなどの工夫した対応もしている。さらに、利用者同士が体調を気遣って声をかけたり、面倒を見たりする姿も見られる。中には、孤立しがちな利用者もおり、職員が声をかけ、利用者同士の間を取り持つような支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人に前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所にドライブなどで出かける事はありますが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、制限を設けているが、出来るだけ、希望に添えるように努力をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、ベランダに出てもらって気分転換をしてもらっている。今年も2階のベランダで、種からまいたスイカやひまわりをみんなと一緒に育ててもらっている。	○	○	○	コロナ禍が続き、事業所の敷地外へ外出する頻度は減少しているが、敷地内は広く、日常的に歩行をしたり、外気浴をしたりすることは十分にでき、利用者の気分転換に繋がっている。感染対策を講じた上で、ドライブをして、桜や芝桜、藤の花などの花を見に行ったり、8月には敷地内で夏祭りを開催したりするなど、徐々に以前のような支援が再開され、利用者には喜ばれている。また、2階のベランダでは、スイカやひまわりを利用者と一緒に育てられ、重度の利用者もベランダに出て、生長の様子を楽しんでいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	新型コロナウイルス感染症が拡大してからは感染状況を見ながら、認知症カフェが開催している時は、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て参加させてもらっている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	事業所では、利用者の心身機能の維持や向上を目指し、状況に応じてパズルやマスメゲームなどで脳の活性化を図るとともに、1日2回のラジオ体操や、食事前に手の体操を職員と一緒にし、身体を動かす機会を設けるなどの支援に取り組んでいる。また、車いすを自走できる利用者には、職員が見守りながら自走してもらうなど、一人ひとりのできることをアセスメントし、介護計画の中に取り入れ、継続できるような支援にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように根気よく声掛け見守りしている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらうようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	日常の関わりの中で、職員は、利用者が何をしたいか、何ができるかを把握し、張り合いのある生活を送れるよう支援している。洗濯物たたみやテーブル拭きなど、利用者に手伝ってもらった後には、必ず職員は「ありがとうございました」とお礼を伝え、やりがいを感ぜてもらえるようにしている。お花の先生をしていた利用者には、事業所内で花を生けてもらうなどの出番作りを行うなど、楽しみのある生活が送れるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを考えながら、季節ごとの花を見に行ったりしている。	○	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようになっている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといてもらっている。				<p>事業所では、日々利用者が自尊心やプライドを保ちながら生活を送れるような支援に努めている。起床時等に、職員と一緒に鏡を見ながら整容をしたり、目ヤニが付いていると、コットンでやさしく拭いたり、顔を自分で洗うことができない利用者には、濡れタオルで拭くなどの対応をしている。中には、自分で化粧を行い、夜には、きちんと自分で化粧を落とすから寝る利用者もいる。また、月1回の訪問美容で、好みの髪形に整えるほか、希望に応じて、馴染みの美容室へ出かける利用者もいる。重度の利用者も含めて、利用者自身の好きな洋服や髪型を考慮した支援もしている。さらに、食事の際に、安易に食事エプロンを使用せず、代用してタオルを使用している。加えて、食べこぼしや着衣の乱れが見られた場合には、他の利用者に気付かれないように、職員はさりげなくフォローするなどの気配りが行われている。100歳のお祝いなど、記念すべき時には、ドレスアップをする利用者の姿も見られるなど、張り合いが持てるような支援にも取り組んでいる。</p>
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようになっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄、嫌いな色や柄などもできるだけ聞くようになっている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようになっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行くように配慮している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。				
		g	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗ひ物は、出来る利用者さんが時々してくれる。			○	<p>法人の栄養士が献立を作成し、専属の職員が厨房で調理を行い、利用者の好みやアレルギーの有無のほか、季節の行事や旬の食材などが考慮され、バランスの取れた食事を利用者に提供している。利用者は、食材の下ごしらえやテーブル拭き、食器の片付けなど、リビングでできることを手伝っている。箸やスプーンは、入居時に馴染みの物を持ち込んでもらい、基本的に使用してもらっているが、食器類は、事業所で用意した滑りにくい物や主食が見えやすい色つきの物を用意して、なるべく利用者自身で食べられるようにしている。また、利用者の嚥下状態に合わせて、やわらかさや刻みなど、食べやすい食の形態で提供している。菜園で採れた野菜や果物を使用することで、利用者は季節を感じる事ができる。以前は、食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂ることができていたが、感染予防のため、職員は見守りや食事介助に専念し、現在は別の場所で同じ食事をしている。リビングには、1日の食事の献立が掲示され、リビングに面したガラス越しに見える厨房の様子が見えるほか、匂いなどから食事が待ち遠しくなるなど、利用者を楽しみを感じさせてくれている。食事前には、重度の利用者もリビングに出て食事を摂っており、他の利用者と一緒に献立の説明を聞くほか、手の体操や歌を歌うなど、食事の雰囲気を感じることができるよう配慮も行われている。</p>
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでいる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんなどに食事を楽しんでもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手な物、アレルギーにも配慮してくれている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせて調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、軽くて持ちやすいものを使用している。コップや湯飲みは、その人に合った物を使用してもらっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んで、利用者さんの食事介助をしながら、一人一人の様子を見守り、サポートをしている。職員の食事は、新型コロナウイルス感染症を配慮して、事務所で食べている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事の道具具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、ポカリスエットやジュースなどに交換して摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望を聞いて、栄養士さんが献立をたててくれている。			◎	
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。						

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。	/	/	/	月2回、利用者は訪問歯科診療を受けている。歯科衛生士による利用者全員の口腔内のチェックのほか、口腔ケアの指導もあり、職員は利用者の口腔内の健康状態を把握するとともに、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。歯磨きができる利用者には、職員が見守りや口腔内の確認を行うとともに、自分で歯磨きができない利用者には介助をするなど、日常的に口腔内の清潔保持に努めている。約7年間に渡り、歯科医と歯科衛生士に来院してもらい、指示やアドバイスを受けることができていたが、今までに得た職員の知識や技術を活かして、訪問調査月である10月からは、職員間で適切な口腔ケア支援を行うようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回以上ポリドントもしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導もしてもらっている。	/	/	◎	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。リハビリパンツで過ごす利用者も多いが、排泄パターンを把握して、職員が声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツを履いて生活を送ることのできている利用者もいる。状況に応じて、ポータブルトイレを居室に置いている利用者もいる。状態に応じて、パッドやリハビリパンツなどの排泄用品の使用が必要な場合には、申し送りや職員会議等の中で適切な用品を職員間で検討するとともに、家族に了承の上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。	◎	/	○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解ももらって使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、1日2回のラジオ体操やホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらうようにしている。	◎	/	◎	事業所では、入浴できる曜日や時間帯を固定せずに、利用者の希望に応じた支援をしている。午前と午後の入浴も可能で、勤務体制もあるが、16時頃までの入浴を可能としている。希望があれば、毎日の入浴も可能で、中には、月に25日程度入浴している利用者もいる。また、入浴を拒む利用者には、曜日や時間帯を変えて、職員が声かけするなどの工夫を行い、少なくとも週2回は入浴できるよう支援することができている。夏場には、シャワー浴の対応をすることもあるが、利用者が基本的に湯船に浸かれるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分が入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくりと入浴できるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強いのないように努めている。時間帯を考えたリスタッフを交代して、気持ちよく入ってもらうように工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。				事業所では、なるべく服薬に頼らない方針で、日中の過ごし方などにも注視し、夜間に利用者が良眠できるような支援に努めている。寝付けない利用者には、22時までリビングでテレビを見てもうほか、それに降にも、事務所で職員と会話をするなど、利用者が自然と眠たくなるまで、ゆっくりと過ごしてもらっている。中には、睡眠導入剤を使用している利用者も数名いるが、内服時間を22時頃に、眠れない場合などに薬を服用してもらっている。また、屋敷の時間が長くないように、職員は利用者にも声をかけて、日中の活動を支援するなど、生活リズムを整えるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をしてもらっている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持てない人は、事務所で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	○		○	外部の定期的な病院受診は、家族対応を原則としているが、県外に住む家族で対応できない緊急時など、職員は同行支援をしている。また、コロナ禍で行動制限が設けられた中でも、親族の法要や葬祭へ参列してもらうなど、利用者や家族から出された要望には、可能な限り応えられるように職員間で検討を行い、その時々状況に合わせて、柔軟な対応をしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	◎	広い駐車場の奥には、柿の木やサツマイモが植えられた畑があるほか、向かい合った両ユニットの玄関アプローチはすっきりと整備され、広い縁台も置かれるなど、利用者や来訪者がくつろげる空間となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに応じた物を飾るようにしている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○	◎	○	広々とした玄関ホールには清潔感があり、季節の絵や観葉植物が飾られたスペースは来訪者を迎えてくれる。各ユニットのリビングは、中庭に面して配置され、リビングから見える中庭の植栽が、利用者に季節を感じさせてくれる。共用空間は採光が差し込んで明るく、掃除や換気が行き届き、不快な音や光、臭いなどはなく、花や絵が飾られるなど、心地良い空間となっている。訪問調査日には、利用者がソファに座ってくつろいだり、パズルやゲームをして楽しんだり、職員と穏やかに会話するなど、思い思いの場所で過ごす利用者の様子を見ることができた。また、リビングからは、ガラス窓で仕切られた厨房で調理する様子もよく見えるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気をつけている。定期的な掃除をし、臭いにも気をつけている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎	/	○	居室にはエアコンやベッド、チェスト、テレビ、クローゼットが備え付けられているほか、利用者は馴染みのものを持ち込むこともできる。中には、自宅からテーブルを持ち込んだり、写真や花を飾ったりするなど、好みの空間づくりを行い、居心地良く過ごしている利用者もいる。また、転倒の心配がある利用者の居室には、床に絨毯を敷くなど、安全への配慮も行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手摺りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。	/	/	○	建物内はバリアフリー構造で、利用者の動線上に、手すりが設置され、安全に移動できるようになっている。ユニット内にはトイレが3か所あり、分かりやすい表示も行われ、利用者が混乱しないように配慮されている。また、各居室には表札があるほか、様々なフルーツの写真の表示を目印にして、利用者が迷うことなく自立した生活が送れるように工夫している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手にとれるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見れるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしているとの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	ユニットが2階にあり、ユニットの入り口に階段がある為、安全を考慮して鍵をかけているが、ユニット間は、自由に行き来できるように施錠はしていない。居室は、鍵はかけていない。玄関、外部との出入りには、人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。	◎	◎	○	職員は、日中に玄関などの出入り口に鍵をかけることの弊害を理解している。事業所では、玄関や1階ユニットの出入り口に鍵をかけておらず、玄関はドアの開閉に合わせてチャイムが鳴るなど、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。2階ユニットのみ、出入り口の付近に階段があるため、利用者の安全面を配慮してユニットの入り口を施錠しているが、外に出ようとする利用者を制止することをせず、職員が一緒に付き添い、事業所内を一回りして納得してもらうなど、元の場所へ戻るような支援も行われている。また、同一階のユニット間は、利用者同士が自由に行き来できるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着いた時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している。	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護師やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による住診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切にし、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の同意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	普段より、主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。又、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間も有り、相談もしている。情報や気づきは常に看護師に報告をしており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも電話で伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ服用するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。				法人・事業所として、「看取り指針及び同意書」を整備し、入居時に、対応できることなどを説明するとともに、利用者や家族に延命の希望等を確認している。状態が悪化し、看取りの時期が近くなった場合には、家族や主治医、職員を交えて話し合うとともに、利用者や家族の意向を大切にしながら方針を共有し、看取り介護を行っている。また、主治医や訪問看護との連携は取れているが、医療依存度の高い利用者への看取り支援は困難であり、入居時に家族に説明して理解を得ている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュと消毒剤、ペーパータオルを設置している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆっくりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらえようように努めている。	/	/	/	以前は、年1回家族会を開催するほか、多くの家族が参加してイベントや行事等で交流を図ることができていた。現在は、感染対策のために建物内での面会対応もできておらず、イベントへの参加協力の呼びかけは行われていない。家族との面会は、屋外や窓越しの対応となっており、来訪時には、管理者や代表者から利用者の状況を説明している。また、利用者の状況は、3~4か月に1回、手紙で知らせているが、頻回な連絡はできていない。事業所の運営上の事柄や出来事は、運営推進会議や家族会の中で報告していたが、現在は家族会が開催できていないため、以前のような家族への十分な情報伝達まではできていない。事業所として、「感染状況を見計らい、来年度は家族会を開催したい」と考えているが、利用者家族等アンケート結果もあり、事業所運営に関して、家族の理解や協力がより得られるような工夫が行われることを期待したい。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように、新型コロナ感染状況を確認しながら、参加の呼びかけをしているが、難しい時は、行事の内容を社内報で報告したり、手紙や写真で報告をしている。	○	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。又、病院受診をしたり、体調の悪い時など、その都度、電話で伝えている。	◎	/	○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解と協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	新型コロナ感染症状況を見ながら、運営推進会議や家族会を開催して報告し、開催が難しい時は、書面で報告をしたり、社内報や手紙を送付している。	/	×	/		△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。又、契約時及び料金改定時には、文書で示し、同意を得ている。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。	/	/	/		
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	◎	/	以前は、近隣の保育園と交流をするほか、事業所の夏祭りに地域住民に参加してもらうなど、多くの交流できる機会を設けることができていた。事業所の周囲には民家が少なく、日常的な地域住民との関わりは少ないが、月1回事業所では認知症カフェを開催し、参加した地域住民等と利用者が交流を図ることができている。法人・事業所として、コロナの行動制限も緩和しつつあり、今後は地域との交流が徐々に再開されていくことを期待したい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流がある。年に1回の夏祭り大会や月に1度、同じ敷地内で認知症カフェも、新型コロナ感染状況を見ながら、参加させてもらっている。開催が難しい時は、書面での報告になっている。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが「増えている」。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流がある。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらいたいが、新型コロナの感染状況を見ながら、書面での報告になっている。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、認知症カフェに来てくれるボランティアの方も、新型コロナの感染状況を見てコンサートを開いたり、手品などを予定してくれている。	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。新型コロナの感染状況を見ながら、開催したり、書面で対応したりしている。	○	/	○	法人・事業所として、開催日時やミニ介護講座を含めた年間の運営推進会議計画を作成し、奇数月の第3木曜を基本に会議を開催している。運営推進会議は、地域住民や利用者、家族などの多くの方の参加が得られている。感染状況により、集合形式の会議が文書開催となることもあるが、会議では、事業所の運営状況を報告するほか、事業所で開催している介護講座の情報などを参加メンバーに送付して意見を募るなど、次回の会議開催時にフィードバックをしている。議事録等は、会議の参加メンバーに報告書を送付するとともに、その他の家族には、年1回家族会の中で報告をしていたが、現在は家族会が休止状態となっており、運営推進会議の内容は一部の家族にしか伝わっていないため、全ての家族に報告して周知できるように、職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	利用者さんのサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。又、会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	◎	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じたの研修もしている。	/	/	/	法人・事業所として、年間の社内研修計画を作成し、計画的に職員のスキルアップに努めるとともに、資格取得に向けた支援も行われている。以前は、忘年会や日帰り旅行を実施したり、5年勤続の職員に北海道旅行に行ってもらったりするなど、福利厚生を充実させることができていたが、現在は感染対策で行えないものもある。また、職員から出された意見や要望は、管理者を通して代表者に伝えることができていることもあり、職員は働きやすい環境と感じており、離職者も少なく、職員の平均的な勤続年数は長い。さらに、管理者は職員から意見を聞くとともに、相談にも応じることができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じたの研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりにも努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	◎	事業所には、「身体拘束廃止検討委員会」を設置され、3か月に1回身体拘束や虐待の防止などの研修を実施している。虐待や不適切なケアを職員は十分に理解し、無意識の行為等の不適切なケアが見られた場合には、互いに職員同士で注意し合うとともに、管理者へ報告し、確認の上で注意喚起をしている。また、個別の事例は、申し送りに共有するとともに、職員間で話し合う機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気作りを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解し、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討し、業務改善報告書を書いている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りにも努めている。	○		○	利用者や家族から、運営推進会議などの機会に意見を聞いている。日頃から、職員は話しを傾聴する姿勢で利用者や家族と接し、管理者は、「率直な意見や要望を伝えてもらっている」と感じている。また、職員は、「管理者へ相談や意見を言いやすい」と感じている。また、管理者等は、申し送りや職員会議の中で出された意見を検討し、より良いサービスの提供等に繋げることができている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りにも努めている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんと職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。サービスの評価結果を職員に周知し、目標達成に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議の中で、評価結果や目標達成に向けた取り組み状況等を参加メンバーに報告しているが、コロナ禍が続き、家族会が休止状態となつており、全ての家族までには報告することができていない。事業所内では、1階と2階で職員等が相互にモニターすることを検討していたが、感染対策のために、思うような取り組みが行えていない。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取り組みが十分に理解されていないことが窺えるため、今後は家族会等を活用して、家族に周知するとともに、感染状況が落ち着いた際には、目標達成に向けた取り組み状況について、運営推進会議の参加メンバーや家族に協力を呼びかけてモニターをしてもらうなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺っている。また、1階と2階でモニターをするように取り組んでいる。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。	/	/	/	法人・事業所として、年間の避難訓練計画を作成し、毎月、地震や津波などの様々な災害を想定した避難訓練を実施している。年2回消防署立ち会いのもと、火災の避難訓練を実施している。また、法人内の連携を強化するとともに、代表者は災害時を想定した地域のネットワークにも参画し、支援体制の構築にも努めている。訓練の状況は、運営推進会議の中でも報告し、防災の話合いも行われているが、家族が来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、安心安全な災害の備えが十分に伝わっていないことが窺えるため、さらなる周知方法の工夫など、職員間で検討することを期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。	/	/	/		
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。	/	/	/		
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的の連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	/	△	◎		○
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。	/	/	/		/
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。	/	/	/	法人・事業所として、併設の事業所等と協力し、毎月認知症カフェを開催している。カフェには利用者も参加するとともに、地域住民などの参加者にも認知症を理解してもらえるような機会としても役立っている。また、事業所は地域からの認知度が高く、地域の介護や福祉の総合相談窓口として様々な相談に対応しているほか、積極的に実習生の受け入れなども行われている。さらに、市行政と連携し、代表者が地域の学校などに出向き、介護講座や認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信も行われている。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。	/	/	○		◎
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。	/	/	/		/
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和1年7月より、フィリピンからの実習生を受け入れている。	/	/	/		/
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、運営推進会議に参加してもらっている。年1回の夏祭り大会も、新型コロナウイルス感染症状況を見ながら、開催したり、書面での対応になっている。	/	/	/		◎

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

- (1)ケアマネジメント
- (2)日々の支援
- (3)生活環境づくり
- (4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 4 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 35名	(依頼数) 41名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホームフルーツの家 4ユニット
記入者(管理者) 氏名	子守 由美
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>評価結果と目標達成計画を1階と2階でモニターをするように取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染症で、交流ができない事もあり、思うように取り組めていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設して24年目を迎える事業所は、現在の場所に新築移転されてからも、バリアフリー構造の建物内に清潔感が保たれているほか、リビングが中庭に面して配置され、開放感がある。同じ建物には、居宅介護支援事業所や通所介護、訪問看護、訪問介護事業所が併設され、広い駐車場も完備されている。以前は、併設するデイサービスの利用者との交流も行われていたが、感染対策もあり現在は休止している。コロナ禍が続き、休止されていた認知症カフェは、今年度から再開して毎月開催できるようになり、多方面から参加を得て、利用者との交流も図られるようになっている。事業所には、面会や外出などの制限が継続されているが、感染対策を講じた上で、季節の花を見に行ったり、事業所内で夏祭りを開催したりするなど、利用者が気分転換を図りながら、楽しみのある生活を送れるよう支援している。また、法人として、年間の社内研修計画を作成し、計画的に研修を実施して職員のスキルアップに努めていることもあり、職員の意識も高く、利用者の心身機能の維持・向上に向けた取り組みを実践している。さらに、法人・事業所として、外国人の技能実習生の受け入れに協力したり、市行政と連携して、代表者が介護教室や認知症サポーター養成講座の講師を務めたりするなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信を行うことができている。</p>
---------------------------------------	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I.その人らしい暮らしを支える									
(1)ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気心がけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で情報の共有を行っている。	○	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などを聞き取り、アセスメントシートに記録している。日々の暮らしの中で、新たに得られた情報は赤字で追記するなど、職員間で共有をしている。入居後にも、日常の関わりの中で、担当職員が利用者から話しを聞くほか、表情などを観察し、思いを推し量るよう努めている。また、介護計画の見直し時期には、再度利用者や家族へ意向を聞き取るなど、アセスメントシートの情報も更新されている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、利用者さんの発する言葉や表情等を大切に、日々確認しながら支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していただ方には、情報を提供してもらっている。	/	/	○	入居の際に、管理者等は利用者や家族から、これまでの暮らし方などを聞き取るとともに、把握した情報はアセスメントシートに記録している。入居前に、利用者が入院中や施設入所中でも、管理者等は病院等に出向き、面会をして話しを聞くほか、病院の関係者や介護支援専門員等から情報を得ることもある。入居後にも、日々の会話の中などで、担当職員が新たな情報を聞くこともあり、アセスメントシートに追記するほか、申し送りを活用して職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送り時に伝えている。	/	/	○	担当職員を中心に把握した利用者の情報を、詳細にまとめたアセスメントシートを作成している。訪問診療や訪問看護の専門的な意見を含め、事前に把握した情報をもとに、日々の申し送りや担当者会議などを活用して、職員間で話し合っている。また、利用者本人の視点に立ってより良い支援方法などを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気づきや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	事前に、利用者や家族から意向を聞き、主治医から診療報告書等で情報や指示をもらうことができている。把握した情報をもとに、計画の原案を作成し、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者が取りまとめて介護計画を作成している。利用者や関係者から出された意見を計画に反映するとともに、利用者や家族に説明し、同意を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをするようにしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気心がけており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。				◎ 介護計画作成の過程に参画し、職員は利用者一人ひとりの計画の内容を把握している。利用者個別のアセスメントシートと介護計画は、個人ファイルに経過記録用紙と一緒に綴じられ、記録を記載する際に職員は確認できるようになっている。また、新たな気づきや発見などがあつた場合には、アセスメントシートに赤字で追記し、職員間で共有しやすくなっている。さらに、日々の記録は個別具体的に記載され、月末にモニタリングを実施し、今後のより良い支援に繋げている。AP欄への記載が少なく、利用者の状況等を記載し、より分かりやすい記録の充実も期待されるが、代表者は負担もあり、「一人ひとりの職員に、そこまで求めるのは難しい」と考えている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。				◎ 介護計画は、短期目標の期間に合わせて、6か月に1回見直しをしている。入居直後や退院時など、3か月で計画の見直し時もある。新たな要望や変化が見られない場合も、毎月モニタリングを実施し、利用者一人ひとりの現状確認をしている。また、利用者の心身状況に変化が見られた場合には、担当者会議を開催し、現状に即した新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。				◎ 事業所では、毎月主任クラスで業務連絡会を実施するほか、その後に、各階のユニット合同の部署別会議を開催している。1階と2階で、会議の開催時間をずらすなどの業務を協力するとともに、休日の職員には手当を支給して出席してもらうなど、可能な限り全ての職員が参加できるよう工夫されている。また、部署別会議の中では、内部研修や勉強会を実施するとともに、ケース検討会や担当者会議を行い、利用者一人ひとりの情報共有が図られている。さらに、緊急案件がある場合には、出勤職員でその都度検討をしている。加えて、会議録は全ての職員が確認を行い、確認後にはサインを残すとともに、参加できなかった職員には、管理者が個別に内容を伝え、確実な伝達に繋げている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作りを中心に掛けている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用して、議事録を確認してもらったり、日を改めて個別に伝えている。				
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。	○			◎ 日々の申し送りを実施している。利用者全員の介護記録と排泄記録が1日単位にまとめられ、連絡事項なども記載された様式を使用し、職員は確認後にサインをしている。また、回覧や議事録などの確認後に、サインを残す仕組みがあるほか、全ての職員が確認できるまで、申し送りを継続している。さらに、医師の指示は、介護記録のAP欄に記載等をして赤枠で囲むなど、いずれの職員が見ても分かりやすくなっている。

(2) 日々の支援

9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。				○ 更衣の際の洋服のほか、水分補給のコーヒーやココア、紅茶の飲み物など、日々の暮らしの様々な場面で、職員は声をかけ、利用者が自己決定できるよう支援している。自己決定が難しい利用者には、状況に応じて、いくつかの選択肢を提示するなどの工夫をしている。日々、職員は利用者が笑顔で生活を送れるように心がけた支援に努め、会話の際に、利用者の目線に合わせて笑顔で接したり、一人ひとりが楽しめるような食事や若い頃の話題を提供したり、不安な気持ちを持つ利用者には、家族に会える日を知らせて、安心してもらえるような声かけをするなどの対応をしている。訪問調査日には、一人ひとりがそれぞれの会話を楽しんだり、シグソーバズルやマスゲームなどに真剣に取り組んだりする利用者の様子を確認することができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。				
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。				
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛け、言葉遣いにも気を付けている。				
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。	○	◎	◎	法人として、計画的に社内研修を実施され、職員は常に利用者の人権やプライバシー保護を意識した穏やかな対応に努めている。事業所内には、職員同士も声をかけて注意し合える風土づくりが行われ、イライラするなど、ストレスを抱えているような職員に気づいた場合には、他の職員がケアを交代した対応するなど、利用者に対して、適切な支援が行われるようフォローをしている。また、居室への出入りに際し、職員は必ずノックや声かけをするなど、不在の場合にも、洗濯物を入れや清掃などの入室する理由を説明した上で、事前に利用者到了承を得てから、入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事無ないように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時外でもっと見守りしている。				
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っはならないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。				
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けてもらったり教えてもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事はしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。				職員は、利用者同士の性格や関係性を把握し、配席などの考慮をしている。また、職員が利用者と一緒に過ごすことで、大きなトラブルに発展しないようフォローしている。中には、パズルの邪魔をしたり、話す口調がきつくなったりする利用者もおり、距離を置くほか、配席を変えるなどの工夫した対応もしている。さらに、利用者同士が体調を気遣って声かけをしたり、面倒を見たりする姿も見られる。中には、孤立しがちな利用者もおり、職員が声をかけ、利用者同士の間を取り持つような支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。				
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人に前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。				
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。				
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。				
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所にドライブなどで出かける事はありますが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、制限を設けているが、出来るだけ、希望に添えるように努力をしている。				
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない) (※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、ベランダに出てもらって気分転換をしてもらっている。今年も2階のベランダで、種からまいたスイカやひまわりをみんなと一緒に育ててもらっている。	○	○	○	コロナ禍が続き、事業所の敷地外へ外出する頻度は減少しているが、敷地内は広く、日常的に歩行をしたり、外気浴をしたりすることは十分にでき、利用者の気分転換に繋がっている。感染対策を講じた上で、ドライブをして、桜や芝桜、藤の花などの花を見に行ったり、8月には敷地内で夏祭りを開催したりするなど、徐々に以前のような支援が再開され、利用者には喜ばれている。また、2階のベランダでは、スイカやひまわりを利用者と一緒に育てられ、重度の利用者もベランダに出て、生長の様子を楽しんでいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	新型コロナウイルス感染症が拡大してからは感染状況を見ながら、認知症カフェが開催している時は、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て参加させてもらっている。				
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。				事業所では、利用者の心身機能の維持や向上を目指し、状況に応じてパズルやマスメゲームなどで脳の活性化を図るとともに、1日2回のラジオ体操や、食事前に手の体操を職員と一緒にし、身体を動かす機会を設けるなどの支援に取り組んでいる。また、車いすを自走できる利用者には、職員が見守りながら自走してもらうなど、一人ひとりのできることをアセスメントし、介護計画の中に取り入れ、継続できるような支援にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。				
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように根気よく声掛け見守りしている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらうようにしている。	○		○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。				日常の関わりの中で、職員は、利用者が何をしたいか、何ができるかを把握し、張り合いのある生活を送れるよう支援している。洗濯物たたみやテーブル拭きなど、利用者へ手伝ってもらった後には、必ず職員は「ありがとうございました」とお礼を伝え、やりがいを感ぜてもらえるようにしている。お花の先生をしていた利用者には、事業所内で花を生けてもらうなどの出番作りを行うなど、楽しみのある生活が送れるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを考えながら、季節ごとの花を見に行ったりしている。	○	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようになっている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといてもらっている。				<p>事業所では、日々利用者が自尊心やプライドを保ちながら生活を送れるような支援に努めている。起床時等に、職員と一緒に鏡を見ながら整容をしたり、目ヤニが付いていると、コットンでやさしく拭いたり、顔を自分で洗うことができない利用者には、濡れタオルで拭くなどの対応をしている。中には、自分で化粧を行い、夜には、きちんと自分で化粧を落とすから寝る利用者もいる。また、月1回の訪問美容で、好みの髪形に整えるほか、希望に応じて、馴染みの美容室へ出かける利用者もいる。重度の利用者も含めて、利用者自身の好きな洋服や髪型を考慮した支援もしている。さらに、食事の際に、安易に食事エプロンを使用せず、代用してタオルを使用している。加えて、食べこぼしや着衣の乱れが見られた場合には、他の利用者に気付かれないように、職員はさりげなくフォローするなどの気配りが行われている。100歳のお祝いなど、記念すべき時には、ドレスアップをする利用者の姿も見られるなど、張り合いが持てるような支援にも取り組んでいる。</p>
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようになっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄、嫌いな色や柄などもできるだけ聞くようになっている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようになっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくなりカバしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行くように配慮している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。				
		g	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗い物は、出来る利用者さんが時々してくれる。			○	<p>法人の栄養士が献立を作成し、専属の職員が厨房で調理を行い、利用者の好みやアレルギーの有無のほか、季節の行事や旬の食材などが考慮され、バランスの取れた食事を利用者に提供している。利用者は、食材の下ごしらえやテーブル拭き、食器の片付けなど、リビングでできることを手伝っている。箸やスプーンは、入居時に馴染みの物を持ち込んでもらい、基本的に使用してもらっているが、食器類は、事業所で用意した滑りにくい物や主食が見えやすい色つきの物を用意して、なるべく利用者自身で食べられるようにしている。また、利用者の嚥下状態に合わせて、やわらかさや刻みなど、食べやすい食の形態で提供している。菜園で採れた野菜や果物を使用することで、利用者は季節を感じる事ができる。以前は、食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂ることができていたが、感染予防のため、職員は見守りや食事介助に専念し、現在は別の場所で同じ食事をしている。リビングには、1日の食事の献立が掲示され、リビングに面したガラス越しに見える厨房の様子が見えるほか、匂いなどから食事が待ち遠しくなるなど、利用者を楽しみを感じさせてくれている。食事前には、重度の利用者もリビングに出て食事を摂っており、他の利用者と一緒に献立の説明を聞くほか、手の体操や歌を歌うなど、食事の雰囲気を感じることができるよう配慮も行われている。</p>
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでいる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんなどに食事を楽しんでもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手な物、アレルギーにも配慮してくれている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法として、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、軽くて持ちやすいものを使用している。コップや湯飲みは、その人に合った物を使用してもらっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んで、利用者さんの食事介助をしながら、一人一人の様子を見守り、サポートをしている。職員の食事は、新型コロナウイルス感染症を配慮して、事務所で食べている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事の道具具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、ポカリスエットやジュースなどに交換して摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望を聞いて、栄養士さんが献立をたててくれている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。				月2回、利用者は訪問歯科診療を受けている。歯科衛生士による利用者全員の口腔内のチェックのほか、口腔ケアの指導もあり、職員は利用者の口腔内の健康状態を把握するとともに、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。歯磨きができる利用者には、職員が見守りや口腔内の確認を行うとともに、自分で歯磨きができない利用者には介助をするなど、日常的に口腔内の清潔保持に努めている。約7年間に渡り、歯科医と歯科衛生士に来院してもらい、指示やアドバイスを受けることができていたが、今までに得た職員の知識や技術を活かして、訪問調査月である10月からは、職員間で適切な口腔ケア支援を行うようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。			◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。				
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回以上ポリドントもしている。				
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導もしてもらっている。				
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。リハビリパンツで過ごす利用者も多いが、排泄パターンを把握して、職員が声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツを履いて生活を送ることのできている利用者もいる。状況に応じて、ポータブルトイレを居室に置いている利用者もいる。状態に応じて、パッドやリハビリパンツなどの排泄用品の使用が必要な場合には、申し送りや職員会議等の中で適切な用品を職員間で検討するとともに、家族に了承の上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。				
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。				
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。	◎		○	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをして。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。				
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをして。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。				
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解ももらって使用している。				
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。				
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)		食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、1日2回のラジオ体操やホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。				
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらうようにしている。	◎		◎	事業所では、入浴できる曜日や時間帯を固定せずに、利用者の希望に応じた支援をしている。午前と午後の入浴も可能で、勤務体制もあるが、16時頃までの入浴を可能としている。希望があれば、毎日の入浴も可能で、中には、月に25日程度入浴している利用者もいる。また、入浴を拒む利用者には、曜日や時間帯を変えて、職員が声かけするなどの工夫を行い、少なくとも週2回は入浴できるよう支援することができている。夏場には、シャワー浴の対応をすることもあるが、利用者が基本的に湯船に浸かれるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくりと入浴できるように支援している。				
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。				
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強いのないように努めている。時間帯を考えたリスタッフを交代して、気持ちよく入ってもらうように工夫している。				
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。	/	/	/	事業所では、なるべく服薬に頼らない方針で、日中の過ごし方などにも注視し、夜間に利用者が良眠できるような支援に努めている。寝付けない利用者には、22時までリビングでテレビを見てもうほか、それに降にも、事務所で職員と会話をするなど、利用者が自然と眠たくなるまで、ゆっくりと過ごしてもらっている。中には、睡眠導入剤を使用している利用者も数名いるが、内服時間を22時頃に、眠れない場合などに薬を服用してもらっている。また、屋敷の時間が長くないように、職員は利用者にも声をかけて、日中の活動を支援するなど、生活リズムを整えるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。	/	/	/	
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をしてもらっている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。	/	/	/	
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。	/	/	/	
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。	/	/	/	
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務所で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。	/	/	/	
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	○	/	○	外部の定期的な病院受診は、家族対応を原則としているが、県外に住む家族に対応できない緊急時など、職員は同行支援をしている。また、コロナ禍で行動制限が設けられた中でも、親族の法要や葬祭へ参列してもらうなど、利用者や家族から出された要望には、可能な限り応えられるように職員間で検討を行い、その時々状況に合わせて、柔軟な対応をしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入ることができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	◎	広い駐車場の奥には、柿の木やサツマイモが植えられた畑があるほか、向かい合った両ユニットの玄関アプローチはすっきりと整備され、広い縁台も置かれるなど、利用者や来訪者がくつろげる空間となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに応じた物を飾るようにしている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○	◎	○	広々とした玄関ホールには清潔感があり、季節の絵や観葉植物が飾られたスペースは来訪者を迎えてくれる。各ユニットのリビングは、中庭に面して配置され、リビングから見える中庭の植栽が、利用者に季節を感じさせてくれる。共用空間は採光が差し込んで明るく、掃除や換気が行き届き、不快な音や光、臭いなどはなく、花や絵が飾られるなど、心地良い空間となっている。訪問調査日には、利用者がソファに座ってくつろいだり、パズルやゲームをして楽しんだり、職員と穏やかに会話するなど、思い思いの場所で過ごす利用者の様子を見ることができた。また、リビングからは、ガラス窓で仕切られた厨房で調理する様子もよく見えるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気をつけている。定期的な掃除をし、臭いにも気をつけている。	/	/	◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。	/	/	○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎	/	○	居室にはエアコンやベッド、チェスト、テレビ、クローゼットが備え付けられているほか、利用者は馴染みのものを持ち込むこともできる。中には、自宅からテーブルを持ち込んだり、写真や花を飾ったりするなど、好みの空間づくりを行い、居心地良く過ごしている利用者もいる。また、転倒の心配がある利用者の居室には、床に絨毯を敷くなど、安全への配慮も行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手摺りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。	/	/	○	建物内はバリアフリー構造で、利用者の動線上に、手すりが設置され、安全に移動できるようになっている。ユニット内にはトイレが3か所あり、分かりやすい表示も行われ、利用者が混乱しないように配慮されている。また、各居室には表札があるほか、様々なフルーツの写真の表示を目印にして、利用者が迷うことなく自立した生活が送れるように工夫している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手にとれるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見れるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしているとの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	ユニットが2階にあり、ユニットの入り口に階段がある為、安全を考慮して鍵をかけているが、ユニット間は、自由に行き来できるように施錠はしていない。居室は、鍵はかけていない。玄関、外部との出入りには、人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。	◎	◎	○	職員は、日中に玄関などの出入り口に鍵をかけることの弊害を理解している。事業所では、玄関や1階ユニットの出入り口に鍵をかけておらず、玄関はドアの開閉に合わせてチャイムが鳴るなど、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。2階ユニットのみ、出入り口の付近に階段があるため、利用者の安全面を配慮してユニットの入り口を施錠しているが、外に出ようとする利用者を制止することをせず、職員が一緒に付き添い、事業所内を一回りして納得してもらうなど、元の場所へ戻るような支援も行われている。また、同一階のユニット間は、利用者同士が自由に行き来できるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着いた時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。	/	/	/	
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。	/	/	/	
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している	/	/	/	
		c	気になることがあれば看護師やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による住診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。	/	/	/	
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切にし、馴染みのかかりつけ医での受診もしている。	◎	/	/	
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。	/	/	/	
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の同意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	普段より、主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。又、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間もあり、相談もしている。情報や気づきは常に看護師に報告をしており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも電話で伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ服用するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。				法人・事業所として、「看取り指針及び同意書」を整備し、入居時に、対応できることなどを説明するとともに、利用者や家族に延命の希望等を確認している。状態が悪化し、看取りの時期が近くなった場合には、家族や主治医、職員を交えて話し合うとともに、利用者や家族の意向を大切にしながら方針を共有し、看取り介護を行っている。また、主治医や訪問看護との連携は取れているが、医療依存度の高い利用者への看取り支援は困難であり、入居時に家族に説明して理解を得ている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュと消毒剤、ペーパータオルを設置している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆっくりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらえるように努めている。	/	/	/	以前は、年1回家族会を開催するほか、多くの家族が参加してイベントや行事等で交流を図ることができていた。現在は、感染対策のために建物内での面会対応もできておらず、イベントへの参加協力の呼びかけは行われていない。家族との面会は、屋外や窓越しの対応となっており、来訪時には、管理者や代表者から利用者の状況を説明している。また、利用者の状況は、3~4か月に1回、手紙で知らせているが、頻回な連絡はできていない。事業所の運営上の事柄や出来事は、運営推進会議や家族会の中で報告していたが、現在は家族会が開催できていないため、以前のような家族への十分な情報伝達まではできていない。事業所として、「感染状況を見計らい、来年度は家族会を開催したい」と考えているが、利用者家族等アンケート結果もあり、事業所運営に関して、家族の理解や協力がより得られるような工夫が行われることを期待したい。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえるように、新型コロナ感染状況を確認しながら、参加の呼びかけをしているが、難しい時は、行事の内容を社内報で報告したり、手紙や写真で報告をしている。	○	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。又、病院受診をしたり、体調の悪い時など、その都度、電話で伝えている。	◎	/	○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	新型コロナ感染症状況を見ながら、運営推進会議や家族会を開催して報告し、開催が難しい時は、書面で報告をしたり、社内報や手紙を送付している。	/	/	×		△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。又、契約時及び料金改定時には、文書で示し、同意を得ている。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。	/	/	/		
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	◎	/	以前は、近隣の保育園と交流をするほか、事業所の夏祭りに地域住民に参加してもらうなど、多くの交流できる機会を設けることができていた。事業所の周囲には民家が少なく、日常的な地域住民との関わりは少ないが、月1回事業所では認知症カフェを開催し、参加した地域住民等と利用者が交流を図ることができている。法人・事業所として、コロナの行動制限も緩和しつつあり、今後は地域との交流が徐々に再開されていくことを期待したい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流がある。年に1回の夏祭り大会や月に1度、同じ敷地内で認知症カフェも、新型コロナ感染状況を見ながら、参加させてもらっている。開催が難しい時は、書面での報告になっている。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流がある。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらいたいが、新型コロナの感染状況を見ながら、書面での報告になっている。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、認知症カフェに来てくれるボランティアの方も、新型コロナの感染状況を見てコンサートを開いたり、手品などを予定してくれている。	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。新型コロナの感染状況を見ながら、開催したり、書面で対応したりしている。	○	/	○	法人・事業所として、開催日時やミニ介護講座を含めた年間の運営推進会議計画を作成し、奇数月の第3木曜を基本に会議を開催している。運営推進会議は、地域住民や利用者、家族などの多くの方の参加が得られている。感染状況により、集合形式の会議が文書開催となることもあるが、会議では、事業所の運営状況を報告するほか、事業所で開催している介護講座の情報などを参加メンバーに送付して意見を募るなど、次回の会議開催時にフィードバックをしている。議事録等は、会議の参加メンバーに報告書を送付するとともに、その他の家族には、年1回家族会の中で報告をしていたが、現在は家族会が休止状態となっており、運営推進会議の内容は一部の家族にしか伝わっていないため、全ての家族に報告して周知されるように、職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	利用者さんのサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。又、会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じたの研修もしている。	/	/	/	法人・事業所として、年間の社内研修計画を作成し、計画的に職員のスキルアップに努めるとともに、資格取得に向けた支援も行われている。以前は、忘年会や日帰り旅行を実施したり、5年勤続の職員に北海道旅行に行ってもらったりするなど、福利厚生を充実させることができていたが、現在は感染対策で行えないものもある。また、職員から出された意見や要望は、管理者を通して代表者に伝えることができていることもあり、職員は働きやすい環境と感じており、離職者も少なく、職員の平均的な勤続年数は長い。さらに、管理者は職員から意見を聞くとともに、相談にも応じることができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じたの研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりにも努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	◎	事業所には、「身体拘束廃止検討委員会」を設置され、3か月に1回身体拘束や虐待の防止などの研修を実施している。虐待や不適切なケアを職員は十分に理解し、無意識の行為等の不適切なケアが見られた場合には、互いに職員同士で注意し合うとともに、管理者へ報告し、確認の上で注意喚起をしている。また、個別の事例は、申し送りに共有するとともに、職員間で話し合う機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気作りを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討し、業務改善報告書を書いている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りにも努めている。	○		○	利用者や家族から、運営推進会議などの機会に意見を聞いている。日頃から、職員は話しを傾聴する姿勢で利用者や家族と接し、管理者は、「率直な意見や要望を伝えてもらえている」と感じている。また、職員は、「管理者へ相談や意見を言いやすい」と感じている。また、管理者等は、申し送りや職員会議の中で出された意見を検討し、より良いサービスの提供等に繋げることができている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りにも努めている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんと職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。サービスの評価結果を職員に周知し、目標達成に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議の中で、評価結果や目標達成に向けた取り組み状況等を参加メンバーに報告しているが、コロナ禍が続く、家族会が休止状態となつていたりすることもあり、全ての家族までには報告することができていない。事業所内では、1階と2階で職員等が相互にモニターすることを検討していたが、感染対策のために、思ふような取り組みが行えていない。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取り組みが十分に理解されていないことが窺えるため、今後は家族会等を活用して、家族に周知するとともに、感染状況が落ち着いた際には、目標達成へ向けた取り組み状況について、運営推進会議の参加メンバーや家族に協力を呼びかけてモニターをしてもらうなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	△	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺っている。また、1階と2階でモニターをするように取り組んでいる。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。	/	/	/	法人・事業所として、年間の避難訓練計画を作成し、毎月、地震や津波などの様々な災害を想定した避難訓練を実施している。年2回消防署立ち会いのもと、火災の避難訓練を実施している。また、法人内の連携を強化するとともに、代表者は災害時を想定した地域のネットワークにも参画し、支援体制の構築にも努めている。訓練の状況は、運営推進会議の中でも報告し、防災の話合いも行われているが、家族が来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、安心安全な災害の備えが十分に伝わっていないことが窺えるため、さらなる周知方法の工夫など、職員間で検討することを期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。	/	/	/		
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。	/	/	/		
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的の連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	/	△	◎		○
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。	/	/	/		/
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。	/	/	/	法人・事業所として、併設の事業所等と協力し、毎月認知症カフェを開催している。カフェには利用者も参加するとともに、地域住民などの参加者にも認知症を理解してもらえるような機会としても役立っている。また、事業所は地域からの認知度が高く、地域の介護や福祉の総合相談窓口として様々な相談に対応しているほか、積極的に実習生の受け入れなども行われている。さらに、市行政と連携し、代表者が地域の学校などに出向き、介護講座や認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信も行われている。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。	/	/	○		◎
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。	/	/	/		/
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和1年7月より、フィリピンからの実習生を受け入れている。	/	/	/		/
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、運営推進会議に参加してもらっている。年1回の夏祭り大会も、新型コロナウイルス感染症状況を見ながら、開催したり、書面での対応になっている。	/	/	/		◎

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I.その人らしい暮らしを支える

(1)ケアマネジメント

(2)日々の支援

(3)生活環境づくり

(4)健康を維持するための支援

II.家族との支え合い

III.地域との支え合い

IV.より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	令和 5 年 10 月 4 日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 35名	(依頼数) 41名
地域アンケート回答数	7名	

※事業所記入

事業所番号	3870600297
事業所名 (ユニット名)	グループホームフルーツの家 5ユニット
記入者(管理者) 氏名	子守 由美
自己評価作成日	令和 5 年 9 月 1 日

(別表第1の2)

<p>【事業所理念】</p> <p>和やかで笑顔あふれる生活づくり</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】</p> <p>評価結果と目標達成計画を1階と2階でモニターをするように取り組んでいたが、新型コロナウイルス感染症で、交流ができない事もあり、思うように取り組めていない。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】</p> <p>開設して24年目を迎える事業所は、現在の場所に新築移転されてからも、バリアフリー構造の建物内に清潔感が保たれているほか、リビングが中庭に面して配置され、開放感がある。同じ建物には、居宅介護支援事業所や通所介護、訪問看護、訪問介護事業所が併設され、広い駐車場も完備されている。以前は、併設するデイサービスの利用者との交流も行われていたが、感染対策もあり現在は休止している。コロナ禍が続き、休止されていた認知症カフェは、今年度から再開して毎月開催できるようになり、多方面から参加を得て、利用者との交流も図られるようになっている。事業所には、面会や外出などの制限が継続されているが、感染対策を講じた上で、季節の花を見に行ったり、事業所内で夏祭りを開催したりするなど、利用者が気分転換を図りながら、楽しみのある生活を送れるよう支援している。また、法人として、年間の社内研修計画を作成し、計画的に研修を実施して職員のスキルアップに努めていることもあり、職員の意識も高く、利用者の心身機能の維持・向上に向けた取り組みを実践している。さらに、法人・事業所として、外国人の技能実習生の受け入れに協力したり、市行政と連携して、代表者が介護教室や認知症サポーター養成講座の講師を務めたりするなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信を行うことができている。</p>
---------------------------------------	--	--

評価結果表

【実施状況の評価】

◎よくできている ○ほぼできている △時々できている ×ほとんどできていない

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	本人さんや家族の方が意向を言いやすいような雰囲気心がけており、得た情報はフェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で情報の共有を行っている。	○	/	○	入居時に、管理者等は利用者や家族から、思いや暮らし方の希望などを聞き取り、アセスメントシートに記録している。日々の暮らしの中で、新たに得られた情報は赤字で追記するなど、職員間で共有をしている。入居後にも、日常の関わりの中で、担当職員が利用者から話しを聞くほか、表情などを観察し、思いを推し量るよう努めている。また、介護計画の見直し時期には、再度利用者や家族へ意向を聞き取るなど、アセスメントシートの情報も更新されている。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	家族の方に相談したり、本人さんの表情や言葉から思いをくみ取れるように努めている。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	家族さんや友人の方が面会に来られた時に、情報が得られるように努力をしている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して、職員間で共有している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	カルテの中にフェイスシートやアセスメントシート、介護計画書を入れており、利用者さんの発する言葉や表情等を大切に、日々確認しながら支援している。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	本人さんや家族さんから得た情報は、フェイスシートやアセスメントシートを利用して職員間で共有している。また、同一法人内の他事業所を利用していただ方には、情報を提供してもらっている。	/	/	○	入居の際に、管理者等は利用者や家族から、これまでの暮らし方などを聞き取るとともに、把握した情報はアセスメントシートに記録している。入居前に、利用者が入院中や施設入所中でも、管理者等は病院等に出向き、面会をして話しを聞くほか、病院の関係者や介護支援専門員等から情報を得ることもある。入居後にも、日々の会話の中などで、担当職員が新たな情報を聞くこともあり、アセスメントシートに追記するほか、申し送りを活用して職員間で情報を共有している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態(身体面・精神面)や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントシート等を用いて現状の把握に努めている。	/	/	/	
		c	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握に努めている。(生活環境・職員のかかわり等)	○	カルテや入居者情報、排泄記録表等を用いて把握しており、毎朝の申し送りでも伝えて行っている。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	カルテにアセスメントシートを入れており、気づきや状態の変化などを記入している。家族さんから得た情報も記入して、朝の申し送り時に伝えている。	/	/	○	担当職員を中心に把握した利用者の情報を、詳細にまとめたアセスメントシートを作成している。訪問診療や訪問看護の専門的な意見を含め、事前に把握した情報をもとに、日々の申し送りや担当者会議などを活用して、職員間で話し合っている。把握した情報をもとに、利用者本人の視点に立ってより良い支援方法などを検討している。
		b	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題の把握に努めている。	○	気づきや状態の変化はアセスメントシートやケアプラン等の空スペースに記載するなどして、介護計画書の見直しに活かしている。	/	/	/	
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	介護計画書やアセスメントシートをカルテに入れており、気づきや思いを空スペースに記載するなどして検討している。	/	/	/	事前に、利用者や家族から意向を聞き、主治医から診療報告書等で情報や指示をもらうことができている。把握した情報をもとに、計画の原案を作成し、担当者会議の中で話し合い、計画作成担当者が取りまとめて介護計画を作成している。利用者や関係者から出された意見を計画に反映するとともに、利用者や家族に説明し、同意を得ている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、介護計画書の見直しをするようにしている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	意向を把握しにくい方に関しては、家族さんに相談したり、本人さんの表情や言葉からくみ取れるように努力している。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族さんや地域の人が意向を言いやすい雰囲気心がけており、得た情報などを介護計画書に落とせるように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。				◎ 介護計画作成の過程に参画し、職員は利用者一人ひとりの計画の内容を把握している。利用者個別のアセスメントシートと介護計画は、個人ファイルに経過記録用紙と一緒に綴じられ、記録を記載する際に職員は確認できるようになっている。また、新たな気づきや発見などがあつた場合には、アセスメントシートに赤字で追記し、職員間で共有しやすくなっている。さらに、日々の記録は個別具体的に記載され、月末にモニタリングを実施し、今後のより良い支援に繋げている。AP欄への記載が少なく、利用者の状況等を記載し、より分かりやすい記録の充実も期待されるが、代表者は負担もあり、「一人ひとりの職員に、そこまで求めるのは難しい」と考えている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを個別具体的に記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	3ヶ月から6ヶ月でモニタリングをして申し送り時等を利用して確認している。				
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	利用者毎の担当制を取り、担当者がアセスメントを行っている。				◎ 介護計画は、短期目標の期間に合わせて、6か月に1回見直しをしている。入居直後や退院時など、3か月で計画の見直し時もある。新たな要望や変化が見られない場合も、毎月モニタリングを実施し、利用者一人ひとりの現状確認をしている。また、利用者の心身状況に変化が見られた場合には、担当者会議を開催し、現状に即した新たな計画を作成している。
		b	新たな要望や変化が見られない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	カルテの中に介護計画書を入れており、日々確認をしながら支援している。				
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	入院、退院等の時等、状態の変化時は、適宜、サービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞いている。				
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	適宜、ケース検討会やサービス担当者会を行い、それぞれの意見を聞き、介護計画書に反映したり、状態の変化時は、その都度介護計画書の見直しをしている。				◎ 事業所では、毎月主任クラスで業務連絡会を実施するほか、その後に、各階のユニット合同の部署別会議を開催している。1階と2階で、会議の開催時間をずらすなどの業務を協力するとともに、休日の職員には手当を支給して出席してもらうなど、可能な限り全ての職員が参加できるよう工夫されている。また、部署別会議の中では、内部研修や勉強会を実施するとともに、ケース検討会や担当者会議を行い、利用者一人ひとりの情報共有が図られている。さらに、緊急案件がある場合には、出勤職員でその都度検討をしている。加えて、会議録は全ての職員が確認を行い、確認後にはサインを残すとともに、参加できなかった職員には、管理者が個別に内容を伝え、確実な伝達に繋げている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日頃から、意見を言いやすい雰囲気作り心掛けている。				
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫するとともに、参加できない職員にも内容を正確に共有している。	○	職員会議や行事ごとのある日の申し送り時等を利用して、議事録を確認してもらったり、日を改めて個別に伝えている。				
8	確実な申し送り、情報伝達		日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	申し送り時にすべての職員に情報が伝わるまで繰り返し伝えている。又、回覧や議事録などに確認のサインをもらうようにしている。	○			◎ 日々の申し送りを実施している。利用者全員の介護記録と排泄記録が1日単位にまとめられ、連絡事項なども記載された様式を使用し、職員は確認後にサインをしている。また、回覧や議事録などの確認後に、サインを残す仕組みがあるほか、全ての職員が確認できるまで、申し送りを継続している。さらに、医師の指示は、介護記録のAP欄に記載等をして赤枠で囲むなど、いずれの職員が見ても分かりやすくなっている。

(2) 日々の支援

9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	その人に合わせて、その日をどう過ごしたいかを尋ね、出来る限り利用者の方のペースに合わせてるように努めている。				○ 更衣の際の洋服のほか、水分補給のコーヒーやココア、紅茶の飲み物など、日々の暮らしの様々な場面で、職員は声をかけ、利用者が自己決定できるよう支援している。自己決定が難しい利用者には、状況に応じて、いくつかの選択肢を提示するなどの工夫をしている。日々、職員は利用者が笑顔で生活を送れるように心がけた支援に努め、会話の際に、利用者の目線に合わせて笑顔で接したり、一人ひとりが楽しめるような食事や若い頃の話題を提供したり、不安な気持ちを持つ利用者には、家族に会える日を知らせて、安心してもらえるような声かけをするなどの対応をしている。訪問調査日には、一人ひとりがそれぞれの会話を楽しんだり、シグソープバスやマスメゲームなどに真剣に取り組んだりする利用者の様子を確認することができた。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくらせている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	10時の水分補給時には、コーヒーや紅茶等の中から自己決定できるように努めている。更衣する時は居室のタンスの所に行ってその日に着たい服を選んでもらっている。				
		c	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	「ちょっとまってよ。」の言葉を禁句として、ひとりひとりの思いを大切に寄り添うように心掛けている。体調が悪い時は無理をしないように心掛けている。				
		d	利用者の活き活きした言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	人生の先輩として人格を尊重して関わりを持つように心掛け、言葉遣いにも気を付けている。				
		e	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	本人さんの言葉や表情から想いがくみ取れるように努めている。スタッフからも何々ですか?と具体的に聞き表情などで判断している。				
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。(人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮、目立たずさりげない言葉かけや対応等)	○	社内研修で学べる機会を持っており、人生の先輩として、人格を尊重して関わりを持つように心掛けている。職員同士でも声を掛け合って常に気をつけるようにしている。	○	◎	◎	法人として、計画的に社内研修を実施され、職員は常に利用者の人権やプライバシー保護を意識した穏やかな対応に努めている。事業所内には、職員同士も声をかけて注意し合える風土づくりが行われ、イライラするなど、ストレスを抱えているような職員に気づいた場合には、他の職員がケアを交代した対応するなど、利用者に対して、適切な支援が行われるようフォローをしている。また、居室への出入りに際し、職員は必ずノックや声かけをするとともに、不在の場合にも、洗濯物を入れや清掃などの入室する理由を説明した上で、事前に利用者到了承を得てから、入室をしている。
		b	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮しながら介助を行っている。	○	声掛けの仕方を工夫するなどして、自尊心を損ねる事無ないように、その人らしさを尊重するような対応を心掛けている。排泄時外でもそっと見守りしている。				
		c	職員は、居室は利用者専有の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室に入る時は、必ず、ノックや声掛けをしている。又、他の利用者さんが間違っはならないように気を付けて見守り声かけなどを行っている。				
		d	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	社内研修で学べる機会を持っており、職員同士も声を掛け合って注意をしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けてもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	利用者さんに助けてもらったり教えてもらった時は、感謝の言葉やお礼を声や態度に出して伝えるように努めている。出来る限り一緒にできる事はしてもらって、感謝の気持ちを伝えている。	/	/	/	職員は、利用者同士の性格や関係性を把握し、配席などの考慮をしている。また、職員が利用者と一緒に過ごすことで、大きなトラブルに発展しないようフォローしている。中には、パズルの邪魔をしたり、話す口調がきつくなったりする利用者もおり、距離を置くほか、配席を変えるなどの工夫した対応もしている。さらに、利用者同士が体調を気遣って声をかけたり、面倒を見たりする姿も見られる。中には、孤立しがちな利用者もおり、職員が声をかけ、利用者同士の間を取り持つような支援にも努めている。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	日々の生活の中で、職員が間に入り、状況に応じて見守りを行い、利用者さん同士が助け合い、支えあって生活できるように配慮している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	仲の良い、気の合う人が穏やかに過ごせるように、また、孤立する利用者さんがいないように、ホールでの座席に気を付けて配置している。行事等の時は、世話役の人に前もってお願いをして、円滑に物事が進むように努めている。	/	/	/	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	状況に応じて、職員が中に入り、場所や雰囲気を変えたりしている。	/	/	/	
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	本人さんとお話をしたり、家族さんや知人さんの面会時に得られた情報をカルテやフェイスシートなどに書き留めて情報を職員同士で共有している。	/	/	/	
		b	知人や友人等が気軽に訪れたり、本人が知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていったりなど、これまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	馴染みの場所にドライブなどで出かける事はありますが、知人や友人に会いに行くのは少ない。知人や友人の方が面会に来られた時は、一緒に過ごせるように配慮している。新型コロナウイルス感染症が拡大してからは、制限を設けているが、出来るだけ、希望に添えるように努力をしている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者(および意思表示が困難な場合はご家族)の希望に沿って、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	その人に合わせて、出来る限り利用者の方のペースに合わせるように努めている。外出が難しい時は、庭を散歩したり、ベランダに出てもらって気分転換をしてもらっている。今年も2階のベランダで、種からまいたスイカやひまわりをみんなと一緒に育ててもらっている。	○	○	○	コロナ禍が続き、事業所の敷地外へ外出する頻度は減少しているが、敷地内は広く、日常的に歩行をしたり、外気浴をしたりすることは十分にでき、利用者の気分転換に繋がっている。感染対策を講じた上で、ドライブをして、桜や芝桜、藤の花などの花を見に行ったり、8月には敷地内で夏祭りを開催したりするなど、徐々に以前のような支援が再開され、利用者には喜ばれている。また、2階のベランダでは、スイカやひまわりを利用者と一緒に育てられ、重度の利用者もベランダに出て、生長の様子を楽しんでいる。
		b	家族、地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	新型コロナウイルス感染症が拡大してからは感染状況を見ながら、認知症カフェが開催している時は、認知症サポーターやボランティア、地域の方の協力を得て参加させてもらっている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めている。	/	/	/	事業所では、利用者の心身機能の維持や向上を目指し、状況に応じてパズルやマスメゲームなどで脳の活性化を図るとともに、1日2回のラジオ体操や、食事前に手の体操を職員と一緒にし、身体を動かす機会を設けるなどの支援に取り組んでいる。また、車いすを自走できる利用者には、職員が見守りながら自走してもらうなど、一人ひとりのできることをアセスメントし、介護計画の中に取り入れ、継続できるような支援にも努めている。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の行動や心身状態は、カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、現状の把握に努めており、その人に合った声掛けや支援を心掛けている。看護師や医師にも相談している。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いて、その人の持っている力が発揮できるように根気よく声掛け見守りをしている。家事全般が得意な人には、日課としてしてもらうようにしている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握するように努めている。	/	/	/	日常の関わりの中で、職員は、利用者が何をしたいか、何ができるかを把握し、張り合いのある生活を送れるよう支援している。洗濯物たたみやテーブル拭きなど、利用者に手伝ってもらった後には、必ず職員は「ありがとうございました」とお礼を伝え、やりがいを感ぜてもらえるようにしている。お花の先生をしていた利用者には、事業所内で花を生けてもらうなどの出番作りを行うなど、楽しみのある生活が送れるような支援にも取り組んでいる。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごすように、日常的に、ホームの内外で一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	カルテやフェイスシート、アセスメントなどを用いたり、家族さんや知人の方からえた情報や普段の何気ない会話の中から把握して、日頃から、利用者さんが何をしたいかを考えながら、季節ごとの花を見に行ったりしている。	○	◎	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つと捉え、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	入浴時や更衣の時は、なるべく服を選んでもらうようになっている。起床時に洗顔した時に鏡を見ながら、髪をといってもらっている。				事業所では、日々利用者が自尊心やプライドを保ちながら生活を送れるような支援に努めている。起床時等に、職員と一緒に鏡を見ながら整容をしたり、目ヤニが付いていると、コットンでやさしく拭いたり、顔を自分で洗うことができない利用者には、濡れタオルで拭くなどの対応をしている。中には、自分で化粧を行い、夜には、きちんと自分で化粧を落としてから寝る利用者もいる。また、月1回の訪問美容で、好みの髪形に整えるほか、希望に応じて、馴染みの美容室へ出かける利用者もいる。重度の利用者も含めて、利用者自身の好きな洋服や髪型を考慮した支援もしている。さらに、食事の際に、安易に食事エプロンを使用せず、代用してタオルを使用している。加えて、食べこぼしや着衣の乱れが見られた場合には、他の利用者に気付かれないように、職員はさりげなくフォローするなどの気配りが行われている。100歳のお祝いなど、記念すべき時には、ドレスアップをする利用者の姿も見られるなど、張り合いが持てるような支援にも取り組んでいる。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	出来るだけ利用者さんの希望がかなうように、本人、家族さんと相談して用意して、居心地良く過ごせるようになっている。				
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員が一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	家族さんの情報や普段の何気ない会話の中から把握して、支援できるように努めている。好きな色や柄、嫌いな色や柄などもできるだけ聞くようになっている。				
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	家族さんと本人さんと相談して、季節や行事の合わせて、その人に合う服を着るようになっている。				
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	一人一人の思いやプライドを大切にしながら、さりげなく声掛け見守りしながら、支援している。	○	◎	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	ホームにも月1回美容師さんが来てくれているが、希望のある方は、家族さんに協力してもらって望みの美容室へ行くように配慮している。				
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	本人さんの思いを大切に、その人らしさが保てるように家族さんの協力も得て支援している。				
		h	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。				
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	社内研修で学べる機会があり、理解できている。				法人の栄養士が献立を作成し、専属の職員が厨房で調理を行い、利用者の好みやアレルギーの有無のほか、季節の行事や旬の食材などが考慮され、バランスの取れた食事を利用者に提供している。利用者は、食材の下ごしらえやテーブル拭き、食器の片付けなど、リビングでできることを手伝っている。箸やスプーンは、入居時に馴染みの物を持ち込んでもらい、基本的に使用してもらっているが、食器類は、事業所で用意した滑りにくい物や主食が見えやすい色つきの物を用意して、なるべく利用者自身で食べられるようにしている。また、利用者の嚥下状態に合わせて、やわらかさや刻みなど、食べやすい食の形態で提供している。菜園で採れた野菜や果物を使用することで、利用者は季節を感じる事ができる。以前は、食事の際に、職員は利用者と一緒に食事を摂ることができていたが、感染予防のため、職員は見守りや食事介助に専念し、現在は別の場所で同じ食事をしている。リビングには、1日の食事の献立が掲示され、リビングに面したガラス越しに見える厨房の様子が見えるほか、匂いなどから食事が待ち遠しくなるなど、利用者を楽しみを感じさせてくれている。食事前には、重度の利用者もリビングに出て食事を摂っており、他の利用者と一緒に献立の説明を聞くほか、手の体操や歌を歌うなど、食事の雰囲気を感じることができるよう配慮も行われている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	食事作りは厨房スタッフがやっているが、料理の下ごしらえ等は、一緒に手伝ってもらっている。片付けや洗い物は、出来る利用者さんが時々してくれる。			○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	手伝ってもらった時には、感謝の気持ちを伝え、一緒に喜んでいる。又、ホールには、スタッフが献立を手書きし、利用者さんなどに食事を楽しんでもらっている。				
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	カルテに記入したり食事確認表を作っており、いつでも確認できるようにしている。食べれないメニューがあれば、その都度変更している。				
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって音なつかしいもの等を取り入れている。	○	献立は、栄養士さんが栄養面や季節の物を考慮して立ててくれている。お正月、節分、雛祭り、敬老の日などは折詰弁当を提供している。利用者さんの好みや苦手な物、アレルギーにも配慮してくれている。			○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	一人一人の食事の確認をしながら、彩や添え物に工夫して提供してくれている。				
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	食器は、軽くて持ちやすいものを使用している。コップや湯飲みは、その人に合った物を使用してもらっている。			○	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	職員も利用者さんと同じ食卓を囲んで、利用者さんの食事介助をしながら、一人一人の様子を見守り、サポートをしている。職員の食事は、新型コロナウイルス感染症を配慮して、事務所で食べている。			○	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	その時の献立を伝えて、食事のでき具合や、臭いを伝えながら会話をしている。皆が過ごすホールと厨房が近いように設計されており、厨房内も見えやすい。	○		○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べられる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	栄養士が栄養バランスを考えて献立をたててくれている。水分量は、一日の摂取量を個人別に記録している。				
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	摂取及び排泄記録表に、食事や水分量を記入し、必要量が確保できるように心掛けている。また、状態に合わせて、水分量や食事内容などを工夫している。水分が摂りにくい利用者さんには、ポカリスエットやジュースなどに調整して摂取してもらっている。				
		l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的に話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	○	利用者さんや職員の希望を聞いて、栄養士さんが献立をたててくれている。			◎	
		m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	厨房スタッフが、栄養士さん指導の下、気を付けてしてくれている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	社内研修で勉強をする機会があり、食後には、口腔ケアを行うように努めている。	/	/	/	月2回、利用者は訪問歯科診療を受けている。歯科衛生士による利用者全員の口腔内のチェックのほか、口腔ケアの指導もあり、職員は利用者の口腔内の健康状態を把握するとともに、口腔ケアの重要性を理解している。毎食後に、職員は声をかけ、利用者は歯磨きなどの口腔ケアを実施している。歯磨きができる利用者には、職員が見守りや口腔内の確認を行うとともに、自分で歯磨きができない利用者には介助をするなど、日常的に口腔内の清潔保持に努めている。約7年間に渡り、歯科医と歯科衛生士に来院してもらい、指示やアドバイスを受けることができていたが、今までに得た職員の知識や技術を活かして、訪問調査月である10月からは、職員間で適切な口腔ケア支援を行うようにしている。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	定期的に歯科往診があり診てもらっている。食後の口腔ケア後もスタッフが確認している。	/	/	◎	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	訪問歯科医より、指導を受けており、口腔状況提供書に基づいて支援している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	訪問歯科さんの指導の下、支援している。週に1回以上ポリドントもしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないよう、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック、歯科医の受診等)	○	毎食後、声掛け見守りをして、確認をしている。又、月2回の訪問歯科の時に口腔ケアをしてくれており、指導もしてもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。	/	/	/	事業所では、基本的に利用者がトイレで排泄できるよう支援している。リハビリパンツで過ごす利用者も多いが、排泄パターンを把握して、職員が声かけやトイレ誘導をすることにより、布パンツを履いて生活を送ることのできている利用者もいる。状況に応じて、ポータブルトイレを居室に置いている利用者もいる。状態に応じて、パッドやリハビリパンツなどの排泄用品の使用が必要な場合には、申し送りや職員会議等の中で適切な用品を職員間で検討するとともに、家族に了承の上で使用している。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	社内研修で学ぶ機会があり、その人に合った支援をしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録表をチェックして把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、トイレの声掛けをしている。オムツの使用は、出来るだけ声掛けやトイレ誘導をしてトイレに座ってもらうようにしている。	/	◎	/	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。便秘の場合は、医師の指導のもと、下剤を内服してもらっている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	排泄記録表をチェックして、その人の排泄パターンに合った声掛け見守りをしている。排泄の間に合わない人は、早めの声掛けを行っている。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	おむつの使用などの排泄方法については、利用者の状態に合わせて、申し送り等で検討して、家族さんにも了解ももらって使用している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	一人一人の排泄のパターンを把握して使用している。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	食物繊維の多い食材を毎日食べてもらっている。水分も十分に補えるように声掛けをしている。又、1日2回のラジオ体操やホーム内の散歩を積極的に行ってもらっている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)	○	出来るだけ、希望に添えるように努力している。曜日などは決めておらず、基本希望があれば入ってもらうようにしている。	/	/	◎	事業所では、入浴できる曜日や時間帯を固定せずに、利用者の希望に応じた支援をしている。午前と午後の入浴も可能で、勤務体制もあるが、16時頃までの入浴を可能としている。希望があれば、毎日の入浴も可能で、中には、月に25日程度入浴している利用者もいる。また、入浴を拒む利用者には、曜日や時間帯を変えて、職員が声かけするなどの工夫を行い、少なくとも週2回は入浴できるよう支援することができている。夏場には、シャワー浴の対応をすることもあるが、利用者が基本的に湯船に浸かれるよう支援している。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	転倒などのリスクがあるのでスタッフが側で見ているが、利用者さんの体調を確認しながら、ゆっくりと入浴できるように支援している。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	できる事は、見守り声掛けをしながら、自分でしてもらい、出来ないことの支援をしている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ちよく入浴できるよう工夫している。	○	その時の状態を確認しながら、声掛けをして、無理強いのないように努めている。時間帯を考えたリスタッフを交代して、気持ちよく入ってもらうように工夫している。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	バイタルチェックや体調の確認をしている。入浴後は、水分を取ってもらい、疲れていれば居室で休んでもらっている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	申し送り等やカルテを見てその人の睡眠パターンを確認している。				事業所では、なるべく服薬に頼らない方針で、日中の過ごし方などにも注視し、夜間に利用者が良眠できるような支援に努めている。寝付けない利用者には、22時までリビングでテレビを見てもうほか、それに降にも、事務所で職員と会話をするなど、利用者が自然と眠たくなるまで、ゆっくりと過ごしてもらっている。中には、睡眠導入剤を使用している利用者も数名いるが、内服時間を22時頃に、眠れない場合などに薬を服用してもらっている。また、屋敷の時間が長くないように、職員は利用者にも声をかけて、日中の活動を支援するなど、生活リズムを整えるようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	その人の睡眠パターンを確認して、その人に応じて時間帯を考えて居室で休んでもらえるように心掛けている。また、日中の過ごし方にも注意している。				
		c	利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	出来るだけ、睡眠導入剤や安定剤は内服しないで過ごしてもらようにしている。日中はなるべく活動してもらうように工夫している。			○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	一人一人の状態に合わせて、休息や昼寝をしてもらっている。				
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	本人さんの希望に合わせて、電話や手紙を書いてもらっている。				
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	電話を掛ける時は、家族さんにも了解を得て協力してもらっている。手紙を書きたいときは、一緒に書くようにしている。				
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	家族さんに了解を得て、協力してもらっている。				
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	手紙が届いた時は、本人さんと相談して、電話で伝えたり、手紙を書いたりしている。				
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力してもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	家族さんにも、協力をお願いしている。				
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	社内研修や勉強会などで理解している。				
		b	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	日頃から、理解と協力をお願いしている。				
		c	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」など一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	利用者さん自身、管理できない人が多いので、外出した時等に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、買い物をしている。				
		d	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	入居時に話し合っている。自己管理できる人は、家族さんと相談して、おこずかい程度持ってもらっている。持っていない人は、事務所で立て替え払いしてもらい、希望がある時に、買い物ができる事を伝えている。				
		e	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	入居時に話し合っている。利用者さん自身、管理できない人は、外出した時に、買い物の希望があれば、立て替え払いができる事を伝え、了解を得ている。				
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	その時々様々なニーズに対して、代表と相談しながら柔軟に取り組んでいる。	○		○	外部の定期的な病院受診は、家族対応を原則としているが、県外に住む家族に対応できない緊急時など、職員は同行支援をしている。また、コロナ禍で行動制限が設けられた中でも、親族の法要や葬祭へ参列してもらうなど、利用者や家族から出された要望には、可能な限り応えられるように職員間で検討を行い、その時々状況に合わせて、柔軟な対応をしている。
(3) 生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	建物は、鉄骨2階建てで優しい雰囲気にしており、敷地内には広い駐車場が完備されており、畑や緑を多くした中庭があり、環境面に配慮している。	◎	◎	◎	広い駐車場の奥には、柿の木やサツマイモが植えられた畑があるほか、向かい合った両ユニットの玄関アプローチはすっきりと整備され、広い縁台も置かれるなど、利用者や来訪者がくつろげる空間となっている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていない等。)	○	ホールは、季節の花や行事ごとに応じた物を飾るようにしている。テーブルやソファは、状態に応じて配置換えもしている。隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。	○	◎	○	広々とした玄関ホールには清潔感があり、季節の絵や観葉植物が飾られたスペースは来訪者を迎えてくれる。各ユニットのリビングは、中庭に面して配置され、リビングから見える中庭の植栽が、利用者に季節を感じさせてくれる。共用空間は採光が差し込んで明るく、掃除や換気が行き届き、不快な音や光、臭いなどはなく、花や絵が飾られるなど、心地良い空間となっている。訪問調査日には、利用者がソファに座ってくつろいだり、パズルやゲームをして楽しんだり、職員と穏やかに会話するなど、思い思いの場所で過ごす利用者の様子を見ることができた。また、リビングからは、ガラス窓で仕切られた厨房で調理する様子もよく見えるようになっている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	眩しい光には、レースのカーテンやブラインドを使って調整している。不快な音や大きな音は、出ないように気を付けている。定期的な掃除をし、臭いにも気を付けている。			◎	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節の花を飾ったり、観葉植物を置いている。窓からは、中庭が見え、木を植えているので、緑を楽しんでもらっている。又、行事ごとの飾りもしている。			○	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	隣のユニットとは3枚戸になっており、自由に行き来ができ、気の合った人とソファに座って話ができるようになっている。				
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	家で使っていたテーブルや椅子、化粧台など持って来て使ってもらっている。本人さんと家族さんと相談して、居心地よく生活できるようにしている。	◎		○	居室にはエアコンやベッド、チェスト、テレビ、クローゼットが備え付けられているほか、利用者は馴染みのものを持ち込むこともできる。中には、自宅からテーブルを持ち込んだり、写真や花を飾ったりするなど、好みの空間づくりを行い、居心地良く過ごしている利用者もいる。また、転倒の心配がある利用者の居室には、床に絨毯を敷くなど、安全への配慮も行われている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、混乱や失敗を防ぎ、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	建物内はバリアフリーで、各所に手摺りを設置している。居室には、フルーツの絵を貼り、目印にしている。トイレや浴室にも表示があり、わかりやすくしている。			○	建物内はバリアフリー構造で、利用者の動線上に、手すりが設置され、安全に移動できるようになっている。ユニット内にはトイレが3か所あり、分かりやすい表示も行われ、利用者が混乱しないように配慮されている。また、各居室には表札があるほか、様々なフルーツの写真の表示を目印にして、利用者が迷うことなく自立した生活が送れるように工夫している。
		b	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手にとれるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞や雑誌、本は、いつでも自由に見れるように、ホールの棚に置いている。掃除道具や趣味の物は、所定の所に置いているが、利用者さんが希望すれば、いつでも用意できるようにしており、日々の会話や態度で、感じ取れるように努めている。裁縫道具とポットは危険な場合があるので、事務所に置いている。				
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害(鍵をかけられ出られない状態で暮らしているとの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)を理解し、日中は玄関に鍵をかけなくても済むように工夫している。(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)	○	ユニットが2階にあり、ユニットの入り口に階段がある為、安全を考慮して鍵をかけているが、ユニット間は、自由に行き来できるように施錠はしていない。居室は、鍵はかけていない。玄関、外部との出入りには、人が通るとチャイムが鳴るようになっており、鳴ったらスタッフがその都度確認している。	◎	◎	○	職員は、日中に玄関などの出入り口に鍵をかけることの弊害を理解している。事業所では、玄関や1階ユニットの出入り口に鍵をかけておらず、玄関はドアの開閉に合わせてチャイムが鳴るなど、職員は利用者や来訪者の出入りが分かりやすくなっている。2階ユニットのみ、出入り口の付近に階段があるため、利用者の安全面を配慮してユニットの入り口を施錠しているが、外に出ようとする利用者を制止することをせず、職員が一緒に付き添い、事業所内を一回りして納得してもらうなど、元の場所へ戻るような支援も行われている。また、同一階のユニット間は、利用者同士が自由に行き来できるようになっている。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	入居時等に家族さんと話し合いをしている。入居時の落ち着いた時ややむを得ない時以外は、施錠があたり前にならないように努めている。				
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテに、フェイスシートを入れており、病気や留意事項が一目でわかるようにしている。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	日々の様子をカルテに記載している。毎日、バイタルチェックをし温度表にグラフ化している。異常があれば看護師や医師に相談している				
		c	気になることがあれば看護師やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	訪問看護が併設しており、かかりつけの医師による住診も月2回あり、訪問看護師に同行してもらっている。異状時や気になることがあれば、相談し、協力してくれている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受診状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	利用者さんの受診状況等は、カルテに記載している。状態に応じて、協力病院で受診が行えるようになっている。また、本人さんや家族さんの希望を大切にし、馴染みのかかりつけ医での受診も行っている。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	入居時に本人さん、家族さんと話し合いを持ち、柔軟に対応をしている。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の同意を得られる話し合いを行っている。	○	受診や通院が必要な時は、家族さんと話し合いをしている。また、受診後は、その都度、家族さんに結果を報告し、カルテにも記載している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院時は、介護要約で情報を提供している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、日頃から病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	普段より、主治医、病棟部長、ケースワーカーとの連携を持ち、退院時の受け入れ状態を整えるように努めている。又、医療機関の勉強会に参加するなど関係づくりに努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護が併設しており、看護師が利用者さんと関わる時間もあり、相談もしている。情報や気づきは常に看護師に報告をしており、健康管理や医療面でも協力してもらっている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	○	異常時や緊急時の時は、いつでも相談している。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできる体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解し、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	カルテに処方箋を入れている。変化のある時は、申し送り時に伝えている。医師や看護師には、月2回の往診時に伝えている。家族さんにも電話で伝えている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	薬袋には、名前、日にち、いつ服用するかを記入しており、仕分けする時、内服する時、内服した後も確認している。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎朝、バイタルチェックをしている。食事量や水分量、排尿の回数や排便の有無を確認している。				
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	入居時や状態の変化に合わせて、その都度、本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、確認もしている。現時点での緊急時の対応についての意思の確認書をカルテに入れている。				法人・事業所として、「看取り指針及び同意書」を整備し、入居時に、対応できることなどを説明するとともに、利用者や家族に延命の希望等を確認している。状態が悪化し、看取りの時期が近くなった場合には、家族や主治医、職員を交えて話し合うとともに、利用者や家族の意向を大切にしながら方針を共有し、看取り介護を行っている。また、主治医や訪問看護との連携は取れているが、医療依存度の高い利用者への看取り支援は困難であり、入居時に家族に説明して理解を得ている。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。	○		○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	併設の訪問看護師への相談、協力を得て、職員ともよく話し合っている。				
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	代表、訪問看護師と共に取り組んでいる。				
		e	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	本人さんや家族の方の希望を大切にしながら、医師を含めての話し合いを持っている。又、終末期の指針を定めており、説明も十分に行っている。職員間の意識の確認も行っている。				
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	家族さんの思いを大切に、家族さんの気持ちを理解して、誠実に対応している。				
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。				
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	社内研修で学べる機会を持っており、実技も行っている。ノロウイルス等での汚物処理の仕方については、マニュアルカードを作っており、汚物処理セットも用意している。				
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れ、随時対応している。	○	保健所や行政の勉強会などがあれば、参加している。感染症発生状況も情報もインターネットなどを通じて早く取り入れるようにしている。				
		d	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	洗面所には、手洗いの手順を置いており、薬用ハンドウォッシュと消毒剤、ペーパータオルを設置している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
II. 家族との支え合い										
37	本人をともに支え合う家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時にはゆっくりと過ごしてもらい、生活状況の説明をしている。状態の変化時には、随時報告している。行事などもできるだけ参加してもらえようように努めている。	/	/	/	以前は、年1回家族会を開催するほか、多くの家族が参加してイベントや行事等で交流を図ることができていた。現在は、感染対策のために建物内での面会対応もできておらず、イベントへの参加協力の呼びかけは行われていない。家族との面会は、屋外や窓越しの対応となっており、来訪時には、管理者や代表者から利用者の状況を説明している。また、利用者の状況は、3~4か月に1回、手紙で知らせているが、頻回な連絡はできていない。事業所の運営上の事柄や出来事は、運営推進会議や家族会の中で報告していたが、現在は家族会が開催できていないため、以前のような家族への十分な情報伝達まではできていない。事業所として、「感染状況を見計らい、来年度は家族会を開催したい」と考えているが、利用者家族等アンケート結果もあり、事業所運営に関して、家族の理解や協力がより得られるような工夫が行われることを期待したい。	
		b	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等、家族同士の交流)	○	行事などには、出来るだけ利用者さんと一緒に過ごしてもらえようように、新型コロナ感染状況を確認しながら、参加の呼びかけをしているが、難しい時は、行事の内容を社内報で報告したり、手紙や写真で報告をしている。	○	/	△		
		c	家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たよりの」発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	利用者さんのホームでの生活を手紙でお知らせしている。その時に写真も添えている。又、社内報も送付している。又、病院受診をしたり、体調の悪い時など、その都度、電話で伝えている。	◎	/	○		
		d	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	面会時に生活状況の報告や体調の変化を伝え、職員も一緒に会話の中に入ってコミュニケーションをとるようにしている。	/	/	/		/
		e	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	新型コロナ感染症状況を見ながら、運営推進会議や家族会を開催して報告し、開催が難しい時は、書面で報告をしたり、社内報や手紙を送付している。	/	×	/		△
		f	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時に説明をするようにしている。その後も必要時において話し合いをしている。職員は社内研修にて、虐待および身体拘束についての勉強会をしている。	/	/	/		/
		g	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行うことで、居心地よく安心して過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族さんがいつでも気軽に声を掛けてもらえるような雰囲気作りを心掛けている。面会時には、生活状況や体調の変化などを伝えている。又、必要に応じて電話でも伝えている。	/	/	/		○
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。(食費、光熱水費、その他の自己負担額、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	契約等の変更のある時は、必ず、理解と納得が得られるように具体的に説明をして承してもらっている。又、契約時及び料金改定時には、文書で示し、同意を得ている。	/	/	/		
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退去の時も利用者さん、家族さんに決定過程を明確にして納得が得られるように具体的に説明をして承を得ている。	/	/	/		
III. 地域との支え合い										
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域、事業所が所在する市町の日常生活圏、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	運営推進会議に参加してもらったり、イベントに招待したり、招待して頂いたりしながら、理解をはかっている。	/	◎	/	以前は、近隣の保育園と交流をするほか、事業所の夏祭りに地域住民に参加してもらうなど、多くの交流できる機会を設けることができていた。事業所の周囲には民家が少なく、日常的な地域住民との関わりは少ないが、月1回事業所では認知症カフェを開催し、参加した地域住民等と利用者が交流を図ることができている。法人・事業所として、コロナの行動制限も緩和しつつあり、今後は地域との交流が徐々に再開されていくことを期待したい。	
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	市の相談員、近所の保育園や事業所との交流がある。年に1回の夏祭り大会や月に1度、同じ敷地内で認知症カフェも、新型コロナ感染状況を見ながら、参加させてもらっている。開催が難しい時は、書面での報告になっている。	/	○	○		
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	認知症カフェに参加して下さっているボランティアの方の支援が増えている。	/	/	/		/
		d	地域の人が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	認知症カフェもあり、気軽に立ち寄ってくれていると思う。	/	/	/		/
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	ホームの周りに民家はないが、近所の保育園や事業所との交流がある。年に1回夏祭り大会を開催し、地域の方々にも参加してもらいたいが、新型コロナの感染状況を見ながら、書面での報告になっている。	/	/	/		/
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	近所の保育園や事業所との交流があり、認知症カフェに来てくれているボランティアの方も、新型コロナの感染状況を見てコンサートを開いたり、手品などを予定してくれている。	/	/	/		/
		g	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得て、安全で豊かな暮らしができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	近所の保育園や事業所との交流がある。月に1度、同じ敷地内で認知症カフェを開催しており、参加させてもらっている。運営推進会議や避難訓練時に警察や消防の方に来てもらっている。	/	/	/		/

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人の参加がある。	○	参加者が、参加しやすいように年間行事を立てて案内しており、参加もしてくれている。新型コロナの感染状況を見ながら、開催したり、書面で対応したりしている。	○	/	○	法人・事業所として、開催日時やミニ介護講座を含めた年間の運営推進会議計画を作成し、奇数月の第3木曜を基本に会議を開催している。運営推進会議は、地域住民や利用者、家族などの多くの方の参加が得られている。感染状況により、集合形式の会議が文書開催となることもあるが、会議では、事業所の運営状況を報告するほか、事業所で開催している介護講座の情報などを参加メンバーに送付して意見を募るなど、次回の会議開催時にフィードバックをしている。議事録等は、会議の参加メンバーに報告書を送付するとともに、その他の家族には、年1回家族会の中で報告をしていたが、現在は家族会が休止状態となっており、運営推進会議の内容は一部の家族にしか伝わっていないため、全ての家族に報告して周知されるように、職員間で検討することを期待したい。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告するとともに、会議で出された意見や提案等を活かした結果等も報告し、議事録を公表している。	○	利用者のサービスの実際や評価の取り組みなどは、その都度、報告している。又、会議で出された意見や提案などは、参加者に報告書を提出している。	/	◎	○	
		c	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	テーマによって警察官、消防員など様々な方に参加してもらえるように努めている。	/	/	◎	
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	理念は、利用者さん一人一人が笑顔で穏やかに生活を送ってもらえるようにとの思いを持って、日々取り組んでいる。朝の申し送りでも共有できるようにスタッフ全員で理念を復唱している。	/	/	/	/
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	各ユニットも事務所には、理念や目標を掲げている。パンフレットにも記載している。	○	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文書の説明 代表者:基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	◎	社内勉強会や実技研修は、毎月開催している。勤務年数に応じたの研修もしている。	/	/	/	法人・事業所として、年間の社内研修計画を作成し、計画的に職員のスキルアップに努めるとともに、資格取得に向けた支援も行われている。以前は、忘年会や日帰り旅行を実施したり、5年勤続の職員に北海道旅行に行ってもらったりするなど、福利厚生を充実させることができていたが、現在は感染対策で行えないものもある。また、職員から出された意見や要望は、管理者を通して代表者に伝えることができていることもあり、職員は働きやすい環境と感じており、離職者も少なく、職員の平均的な勤続年数は長い。さらに、管理者は職員から意見を聞くとともに、相談にも応じることができている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	毎月、社内研修や勉強会を開催しており、勤務年数に応じたの研修もしている。又、資格取得に対しての支援もしている。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	代表者は、管理者や個々の職員の努力や勤務状況を把握し、その都度話し合う機会をもっている。資格取得に対しての支援もしており、やりがいや向上心を持って働けるような環境づくりにも努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	◎	西条市の連絡会に参加したり、相互研修に参加して、サービスの質の向上に努めている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	年に1度、ストレスチェックをして、その結果を通して対応している。	○	◎	◎	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解したうえで、これらが見逃ごされることがないように注意を払い、発見した場合の対応方法や手順についても理解している。	◎	社内研修で学ぶ機会を持っており、日々の生活の中で、虐待になりかねない行為は、職員間で話し合いを持っている。利用者さんの内出血や表皮剥離などの異状を発見した時は、事故報告書を書いてもらい、検討している。	/	/	◎	事業所には、「身体拘束廃止検討委員会」を設置され、3か月に1回身体拘束や虐待の防止などの研修を実施している。虐待や不適切なケアを職員は十分に理解し、無意識の行為等の不適切なケアが見られた場合には、互いに職員同士で注意し合うとともに、管理者へ報告し、確認の上で注意喚起をしている。また、個別の事例は、申し送りに共有するとともに、職員間で話し合う機会を設けている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	毎朝の申し送り時や部署会などで話す機会を持っている。また、いつでも話やすい雰囲気作りを心掛けている。	/	/	/	
		c	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	出勤時には、職員の顔色や表情などの確認をしている。又、お互いが注意したり相談できる雰囲気作りにも努めている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	/
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中で気付いた時は、その都度、話し合っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を促している。	○	職員は、社内研修や勉強会で理解し、日頃から身体拘束に対する意識を高めている。家族さんともその都度、よく話し合うように努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解したうえで、利用者や家族の現状を踏まえ、パンフレット等の情報提供や相談に乗る等の支援を行っている。	○	社内研修で学ぶ機会を持っている。日々のケアの中でも確認するように努めている。				
		b	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	その都度、必要に応じて、連携を取って対応をしている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	緊急時の対応についてのマニュアルがあり、勉強会もしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	社内研修や勉強会などで理解しており、実技の勉強会もしている。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事故発生時には、速やかに事故報告書を書いてもらっている。毎月ヒヤリハットを書いてもらい、毎月の職員会議で検討し、業務改善報告書を書いている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	事故発生時には、事故報告書に基づき、朝の申し送り時に確認をしている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情の受付窓口を設けており、苦情があった場合は、代表や管理者に報告している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	苦情報告書に記入し、必要時には、市に報告相談をしている。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	苦情のある時は、速やかに対応をして、前向きな話し合いと改善ができるように努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者や家族が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	利用者さんにも運営推進会議に参加してもらって、意見や要望を言ってもらっている。又、日頃から、何でも言いやすい雰囲気作りにも努めている。	○		○	利用者や家族から、運営推進会議などの機会に意見を聞いている。日頃から、職員は話しを傾聴する姿勢で利用者や家族と接し、管理者は、「率直な意見や要望を伝えてもらえている」と感じている。また、職員は、「管理者へ相談や意見を言いやすい」と感じている。また、管理者等は、申し送りや職員会議の中で出された意見を検討し、より良いサービスの提供等に繋げることができている。
		b	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	家族会や、運営推進会議などで伝えている。又、普段から気軽に何でも言ってもらえるような雰囲気作りにも努めている。				
		c	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	定期的に各ユニットを回って、利用者さんと職員に声を掛けてくれている。又、その都度意見や要望に対応してくれている。				
		d	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	朝の申し送りや、職員会議を利用して検討をしている。又、必要時には、代表にも参加してもらっている。			◎	
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	必要に応じて、朝の申し送り時を利用して、出来るだけ全員で確認をするようにしている。				外部評価の自己評価は、職員全員で取り組んでいる。サービスの評価結果を職員に周知し、目標達成に向けて取り組んでいる。また、運営推進会議の中で、評価結果や目標達成に向けた取り組み状況等を参加メンバーに報告しているが、コロナ禍が続く、家族会が休止状態となつていたりすることもあり、全ての家族までには報告することができていない。事業所内では、1階と2階で職員等が相互にモニターすることを検討していたが、感染対策のために、思うような取り組みが行えていない。利用者家族等アンケート結果から、家族にサービス評価の取り組みが十分に理解されていないことが窺えるため、今後は家族会等を活用して、家族に周知するとともに、感染状況が落ち着いた際には、目標達成に向けた取り組み状況について、運営推進会議の参加メンバーや家族に協力を呼びかけてモニターをしてもらうなど、職員間で検討することを期待したい。
		b	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて、事業所の現状や課題を明らかにするとともに、実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	毎月の職員会議の時に取り組むようにしている。				
		c	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターしてもらっている。	△	運営推進会議や家族会などで報告して、意見や意向を伺っている。また、1階と2階でモニターをするように取り組んでいる。	×	○	△	
		d	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	毎月の職員会議で確認をするようにしている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	◎	マニュアルを作成しており、社内研修や勉強会で学ぶ機会がある。年に1回市の危機管理課にお願いして勉強会を開催している。	/	/	/	法人・事業所として、年間の避難訓練計画を作成し、毎月、地震や津波などの様々な災害を想定した避難訓練を実施している。年2回消防署立ち会いのもと、火災の避難訓練を実施している。また、法人内の連携を強化するとともに、代表者は災害時を想定した地域のネットワークにも参画し、支援体制の構築にも努めている。訓練の状況は、運営推進会議の中でも報告し、防災の話合いも行われているが、家族が来訪する機会が少ないこともあり、利用者家族等アンケート結果から、安心安全な災害の備えが十分に伝わっていないことが窺えるため、さらなる周知方法の工夫など、職員間で検討することを期待したい。	
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	毎月、色々な場面を想定して避難訓練を実施している。年2回消防署員の立会での訓練をし指導してもらっている。	/	/	/		
		c	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	年に2回安全パトロールをして、消火設備や避難経路、非常用の食料や備品の確認をしている。外部に依頼して消防設備の点検も年2回行っている。	/	/	/		
		d	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	消防署とは、定期的の連携を取って、避難訓練に立ち会ってもらったり、緊急時の対応について実技指導をしてもらっている。	/	△	◎		○
		e	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	◎	災害時を想定した地域のネットワークには、代表が積極的に参加してくれている。消防や警察の方とは、運営推進会議にも参加してもらっており、その都度、相談や指導をもらっている。同一事業所内では、協力して災害対策に取り組んでいる。	/	/	/		/
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	◎	市と連絡を取り、介護教室や認知症介護を受託している。毎月、認知症カフェを開催したり、運営推進会議でもミニ介護講座を取り入れている。高校の授業で講演にも行っている。	/	/	/	法人・事業所として、併設の事業所等と協力し、毎月認知症カフェを開催している。カフェには利用者も参加するとともに、地域住民などの参加者にも認知症を理解してもらえるような機会としても役立っている。また、事業所は地域からの認知度が高く、地域の介護や福祉の総合相談窓口として様々な相談に対応しているほか、積極的に実習生の受け入れなども行われている。さらに、市行政と連携し、代表者が地域の学校などに出向き、介護講座や認知症サポーター養成講座の講師を務めるなど、積極的に地域への啓発活動や情報発信も行われている。	
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	毎月の認知症カフェ開催時に相談支援を行っている。又、いつでも相談支援ができるように努めている。	/	/	○		◎
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	毎月、認知症カフェを開催しており、ボランティアの方が、コンサートを開催してくれたり、手品やよさこい踊りなどを披露してくれている。	/	/	/		/
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	○	実践者研修やリーダー研修などで実習生の受け入れをしている。令和1年7月より、フィリピンからの実習生を受け入れている。	/	/	/		/
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域のボランティアや市の相談員、学校、保育園、事業所、医療機関と交流があり、運営推進会議に参加してもらっている。年1回の夏祭り大会も、新型コロナウイルス感染症状況を見ながら、開催したり、書面での対応になっている。	/	/	/		◎